

茨木市次世代育成支援に関するニーズ調査

結果報告書（案）

（19～39歳）

平成31年（2019年）2月

茨木市

目 次

I. 調査概要	1
1 調査目的	1
2 調査設計	1
3 回収結果	1
4 調査結果の見方	1
II. 調査結果	2
1 本人や家族に関することなどについて	2
2 学校に関することについて	12
3 自分自身に関することについて	15
4 仕事について	18
5 ふだんの過ごし方について	24
6 ひきこもりの状況について	29
7 悩みや相談先について	39
8 地域社会で子育てに関する活動の支え手として参加したい活動	44
9 茨木市の暮らしについて	47
III. 調査結果からみえてきた今後の課題	50

I. 調査概要

1 調査目的

現行の「茨木市次世代育成支援行動計画（第3期）」が2019年度末で終了することから、子ども・若者育成支援推進法に基づく「子ども・若者計画」を含めた、本市の子ども・若者支援に関する施策を総合的・計画的に推進するための新たな計画となる「(仮称)茨木市次世代育成支援行動計画（第4期）」(2020～2024年度)を策定することとしている。本調査は、新たな計画策定にあたって、本市の若者の日常生活や就労、社会参加等の状況や意見・要望などを把握することを目的に実施した。

2 調査設計

- (1) 調査地域 茨木市全域
- (2) 調査対象 19～39歳の男女個人
- (3) 対象者数 住民基本台帳から2,000人を無作為抽出
- (4) 調査方法 郵送配付及び郵送回収による郵送調査法(調査期間中に礼状兼督促はがきを送付)と、インターネット調査
- (6) 調査期間 平成30年12月13日(木)～平成30年12月27日(木)

3 回収結果

配付数	回収数	回収率
2,000	677	33.9%

4 調査結果の見方

- (1) 図中の「n」は、設問に対する回答者数のことを示す。
- (2) 回答比率(%)は回答者数(n)を100%として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して表示している。小数点以下の端数処理の関係で、内訳の合計が計に一致しないことがある。
- (3) 複数回答(すべてに○、3つまでに○等)を依頼した質問は、回答比率(%)の計は100.0%を超える。
- (4) 図表において、回答選択肢を簡略化して表記している場合がある。

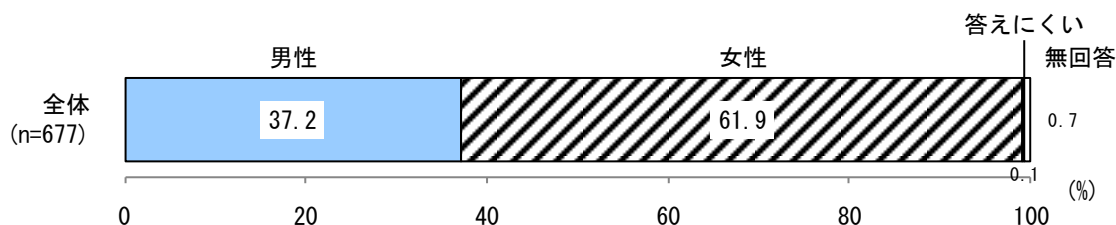
II. 調査結果

1 本人や家族に関することなどについて

(1) 性別

問1 あなたが思う自分の性別をお答えください。(○は1つ)

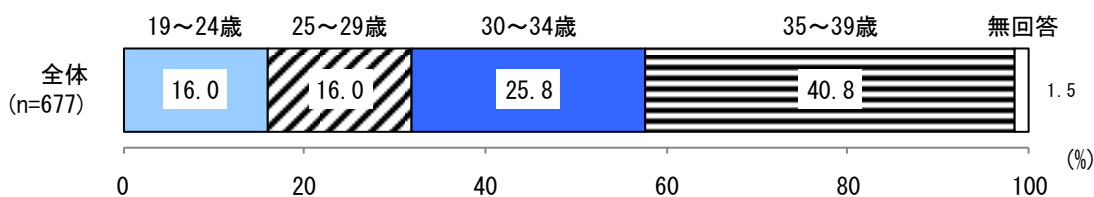
回答者の性別は、「男性」37.2%、「女性」61.9%となっている。



(2) 年齢

問2 あなたの年齢をお答えください。(平成30年12月1日現在)

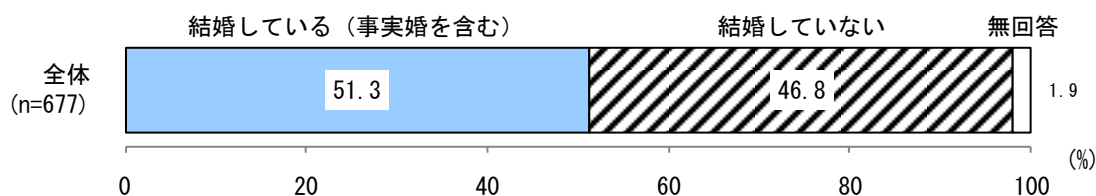
年齢は、「35～39歳」が40.8%で最も多く、次いで「30～34歳」が25.8%、「19～24歳」と「25～29歳」がそれぞれ16.0%で続いている。



(3) 結婚状況

問3 現在、あなたは結婚していますか。(○は1つ)

結婚状況は、「結婚している(事実婚を含む)」が51.3%、「結婚していない」が46.8%となっている。

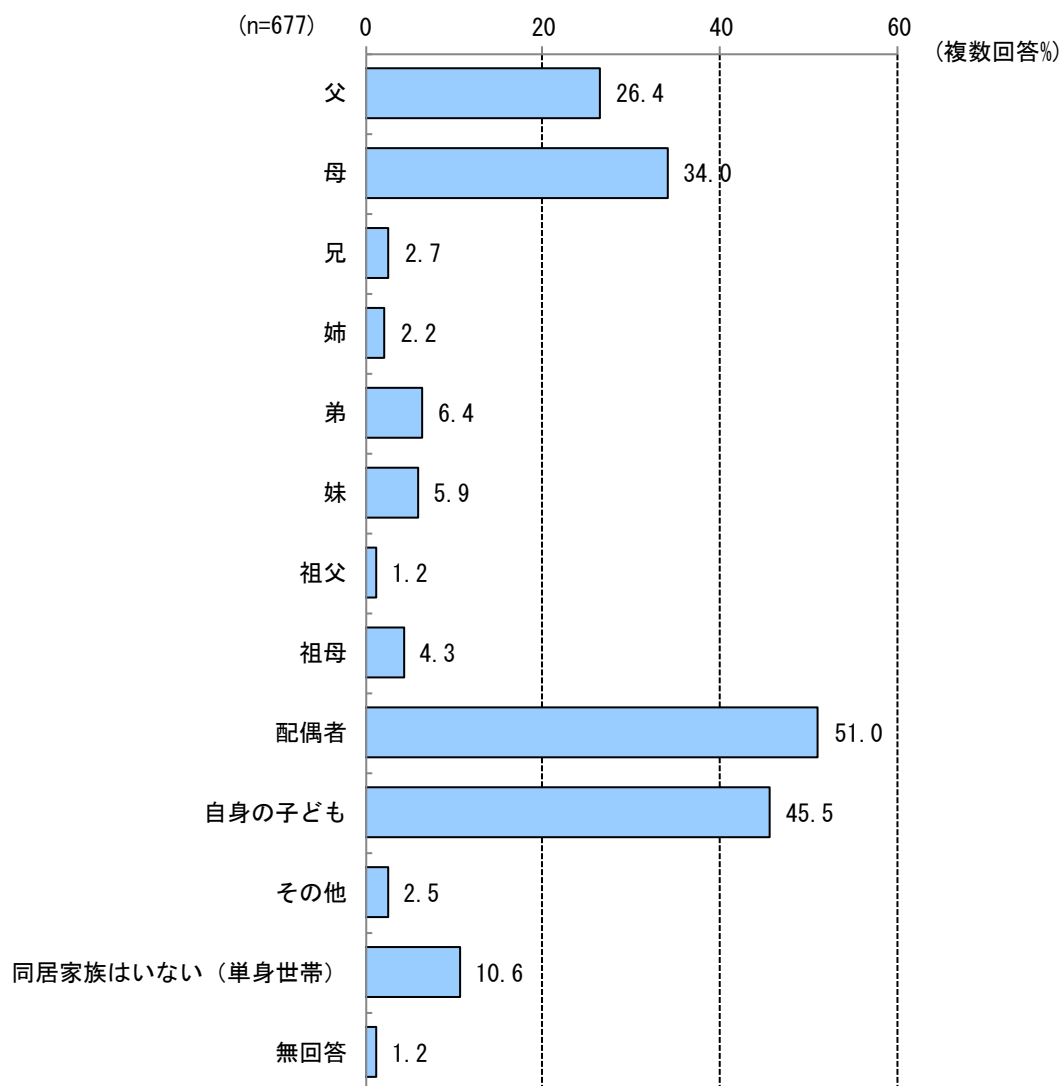


(4) 同居家族

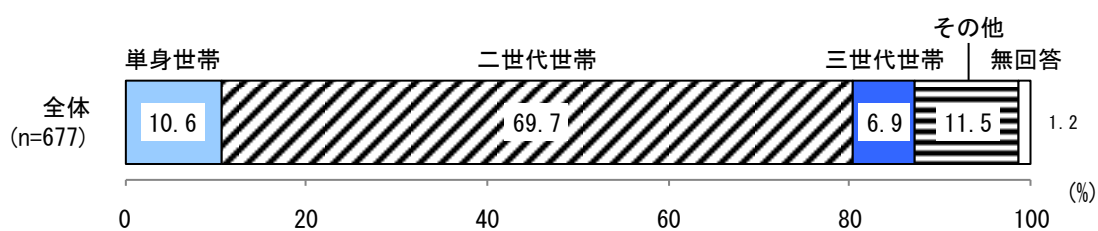
問4 現在、あなたと同居している方すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

家族形態は、「二世世代世帯」が69.7%で最も多く、次いで「単身世帯」が10.6%、「三世世代世帯」が6.9%となっている。

□同居家族



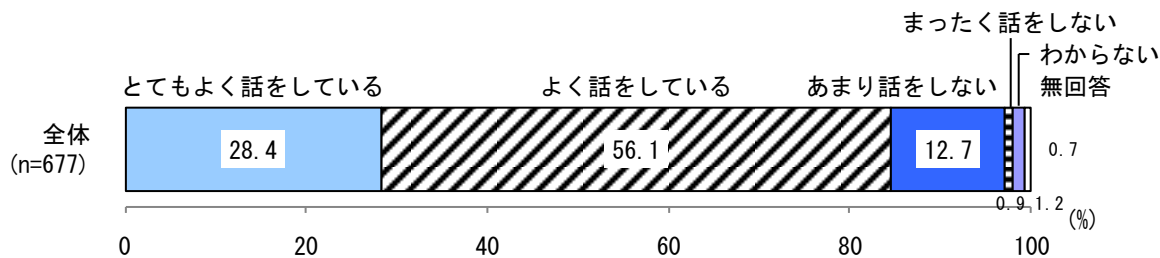
□家族形態



(5) 家族との会話の状況

問5 あなたとご家族とのふだんの会話の状況について、あてはまる番号に○をつけてください。(○は1つ)

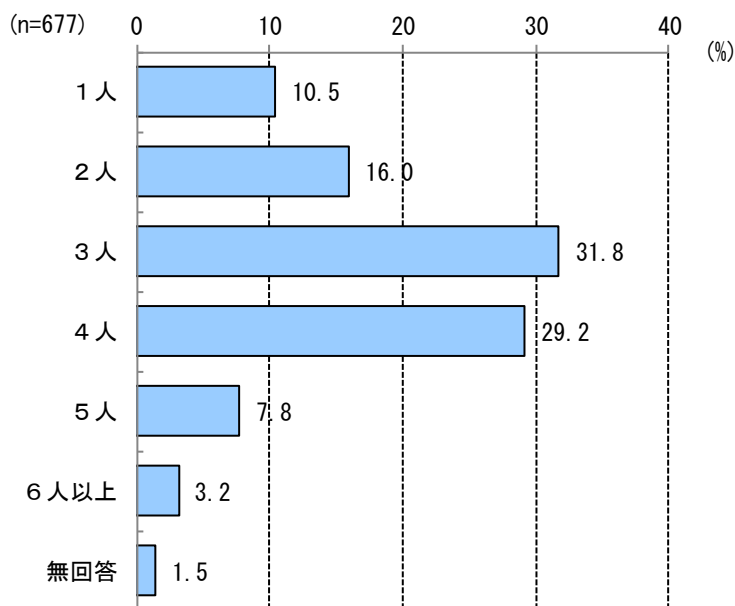
家族とふだん「よく話をしている」が56.1%で最も多く、次いで「とてもよく話をしている」が28.4%で、「あまり話をしない」は12.7%となっている。



(6) 同居する家族の人数

問6 現在、同居している人は合計で何人ですか。あなたも含めた人数を記入してください。

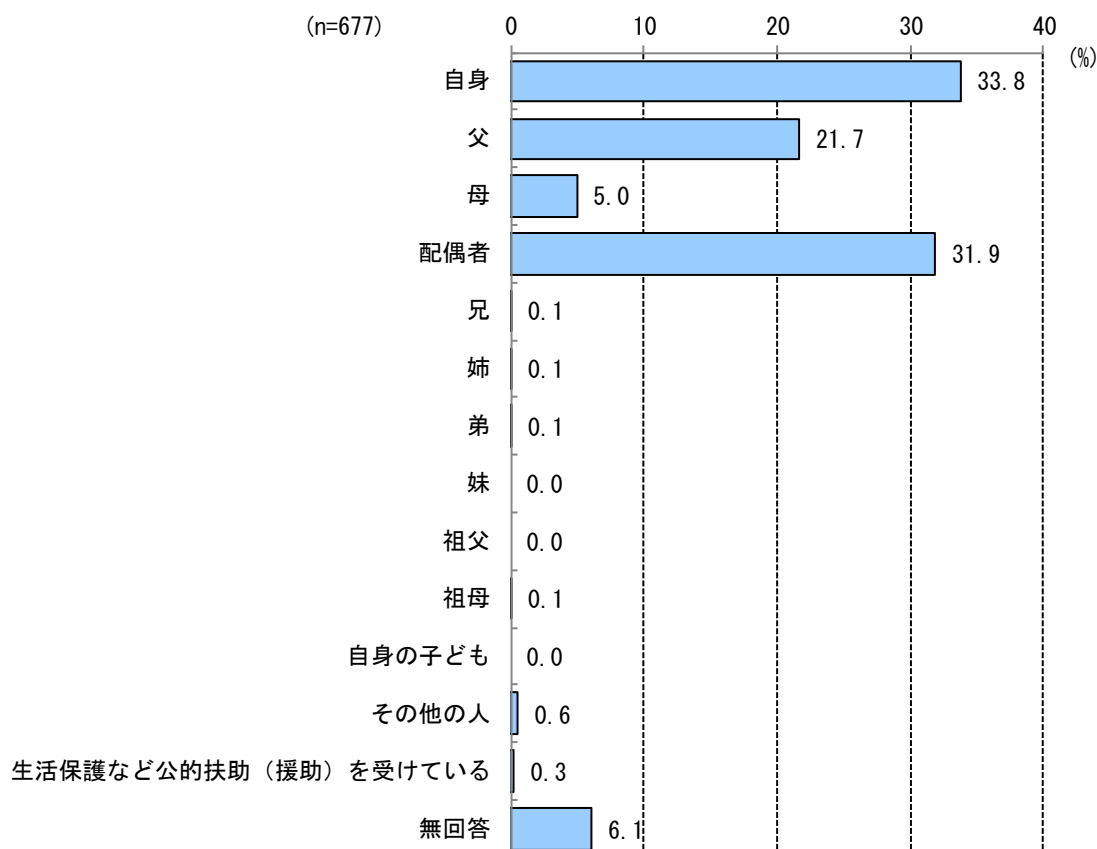
同居家族の人数は、「3人」が31.8%で最も多く、次いで「4人」が29.2%、「2人」が16%となっている。



(7) 主たる生計者

問7 あなたのご家庭で生計を立てているのは主にどなたですか。生計を立てている方が複数いる場合は、もっとも多く家計を負担している人をお答えください。また、主に仕送りで生計を立てている方は、その仕送りをしている人をお答えください。(〇は1つ)

家庭での主たる生計者は、「自身」(33.8%)と「配偶者」(31.9%)が多い。これらに次いで「父」が21.7%となっている。

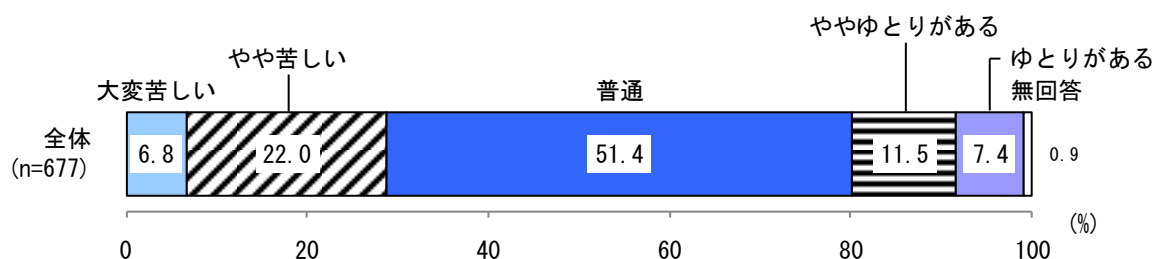


(8) 現在の暮らしの状況

問8 現在、あなたの暮らしの状況をどのように感じていますか。(〇は1つ)

現在の暮らしの状況について、「普通」が51.4%で最も多い。これに次いで「やや苦しい」が22.0%で、「大変苦しい」と「やや苦しい」の割合を合わせた苦しいは28.8%となっている。

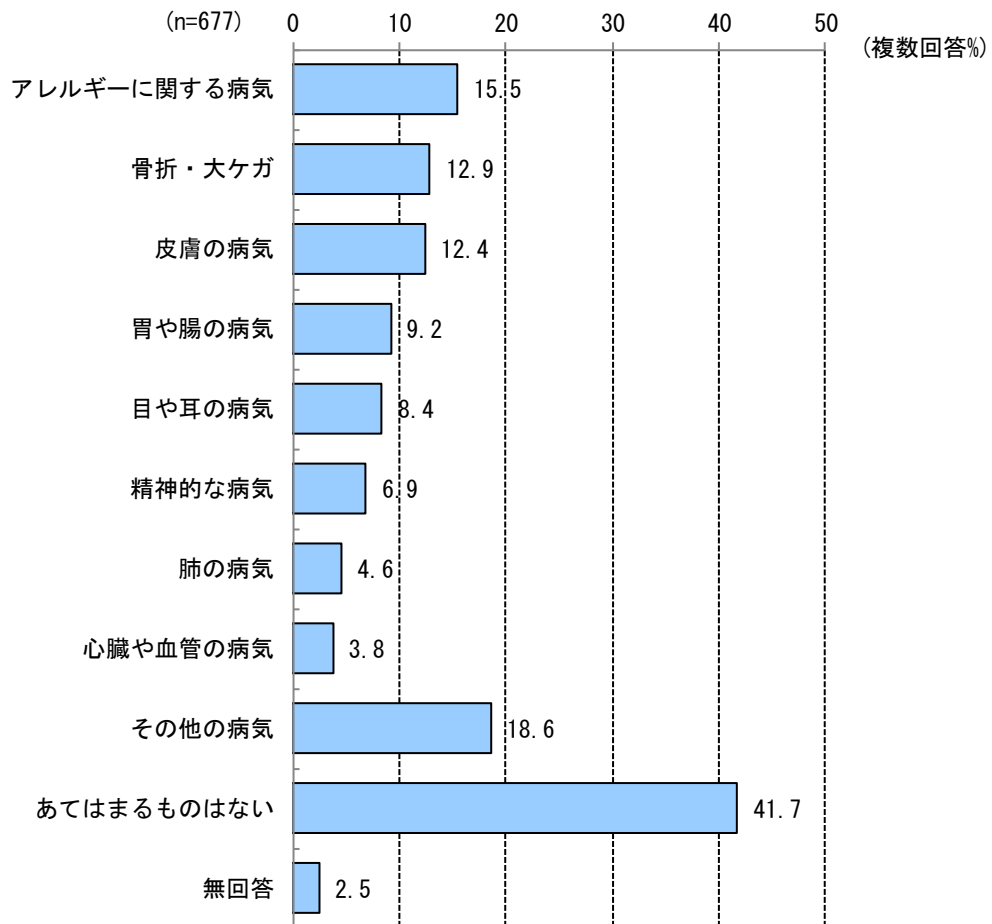
一方、ゆとりがある(「ゆとりがある」と「ややゆとりがある」の割合の合計)は18.9%となっている。



(9) 病気やけがでの通院や入院の経験

問9 あなたは、これまでに以下の病気やけがで通院や入院をしたことはありますか。現在の状況を含め、該当する病気に○をつけてください。(○はいくつでも)

「あてはまるものがない」が41.7%となっている。これまで通院や入院をしたことがある病気について回答で多いものは、「アレルギーに関する病気」である。これに次いで「骨折・大ケガ」(12.9%)で、以下「皮膚の病気」(12.4%)、「胃や腸の病気」(9.2%)、「目や耳の病気」(8.4%)、「精神的な病気」(6.9%)などが続く。



(10) 悩みや困りごとの状況

① 悩みや困っていることの有無

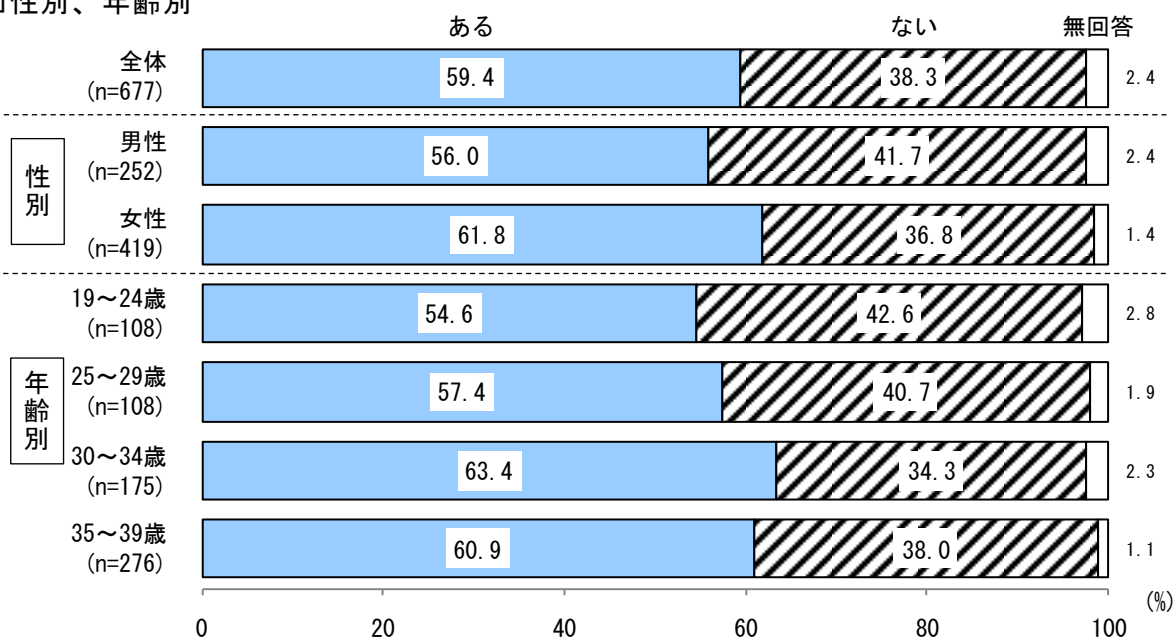
問10 あなたは、ふだん悩んだり、困ったりしていることはありますか。

全体では、悩みや困っていることがある割合は、59.4%となっている。

性別では、悩みや困っていることがある割合は、男性56.0%に対し女性61.8%で、女性の割合が高い。

年代別では、悩みや困っていることがある割合は、30～34歳の割合が63.4%で最も高く、次いで35～39歳の60.9%となっている。

□ 性別、年齢別



②悩みや困っていることの内容

【問10で「1 ある」と答えた方に】

問11 どのようなことで悩んだり、困ったりしていますか。(〇はいくつでも)

悩みや困っていることの内容は、全体では「お金のこと」が50.0%で最も多く、次いで「自分自身の健康のこと」が29.9%となっている。以下、「性格のこと」(24.1%)、「親のこと」(21.1%)、「容姿のこと」(14.4%)、「勉強や進学のこと」(11.7%)などが続く。

性別では、男女とも「お金のこと」が最も多く、次いで「自分自身のこと」や「性格のこと」が多い。

年代別では、19～24歳は「お金のこと」に加え、「性格のこと」が多くなっている。これに次いで「勉強や進学のこと」が多い。それ以上の年代では、「お金のこと」が最も多く、これに次いで「自分自身の健康のこと」が多くなっている。また、30歳代では「親のこと」が高くなっている。

(複数回答%)

	n	性格のこと	容姿のこと	自分自身の健康のこと	ときようだいの健康のこと	親のこと	友だちや仲間のこと	異性のこと	勉強や進学のこと	お金のこと	性に関すること	その他	無回答
全体	402	24.1	14.4	29.9	4.5	21.1	6.5	8.2	11.7	50.0	1.5	31.1	0.7
性別	男性	141	22.0	14.2	28.4	2.1	16.3	7.1	9.9	47.5	3.5	24.8	0.7
	女性	259	25.5	14.7	30.5	5.8	23.9	6.2	7.3	51.7	0.4	34.4	0.8
年代別	19～24歳	59	39.0	28.8	25.4	6.8	13.6	20.3	15.3	39.0	5.1	13.6	1.7
	25～29歳	62	22.6	14.5	25.8	6.5	16.1	6.5	9.7	56.5	-	32.3	-
	30～34歳	111	22.5	14.4	26.1	1.8	26.1	2.7	7.2	50.5	0.9	36.0	0.9
	35～39歳	168	20.2	8.9	35.1	4.8	22.0	3.6	6.0	51.8	1.2	33.3	0.6

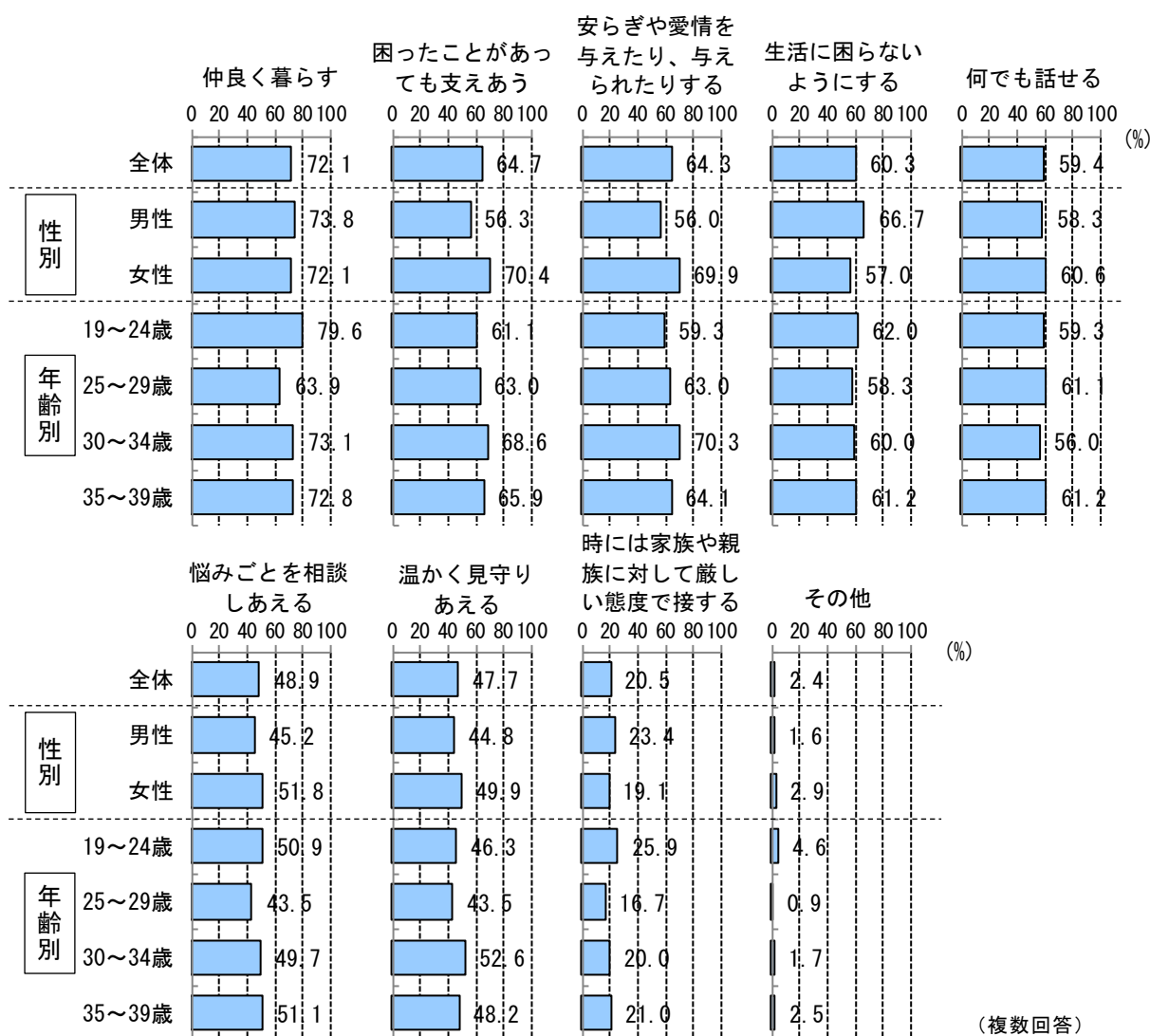
(11) 理想とする家庭

問12 あなたはどのような家庭にしたいと思いますか。あるいはしていますか。
(〇はいくつでも)

全体では、「仲良く暮らす」が72.1%で最も多い。これに次いで「困ったことがあっても支えあう」(64.7%)で、以下、「安らぎや愛情を与えたり、与えられたりする」(64.3%)、「生活に困らないようにする」(60.3%)、「何でも話せる」(59.4%)が続いている。

性別では、男女とも「仲良く暮らす」が最も多く、これに次いで男性は「生活に困らないようにする」、女性は「困ったことがあっても支えあう」が多くなっている。「困ったことがあっても支えあう」「安らぎや愛情を与えたり、与えられたりする」は、男性に比べ女性の割合のほうが10ポイント以上高い。

□性別、年代別



(12) ひきこもりリスクの有無

平成22年に内閣府が実施した「若者の意識に関する調査（ひきこもりに関する実態調査）」における「ひきこもり群」の集計方法を参考に、本調査の結果から本市でのひきこもりのリスクが高いと考えられる人を集計した。

国の調査では、社会的自立に至っているかどうかに着目して、以下のような定義を行っている。本調査についてもこの定義にならって、回答者の中からひきこもりに該当する人（リスクの高い人）を区分し集計を行った。

□ひきこもり群に関する国の定義

問26（ふだんのくらい外出頻度）の質問で、次のいずれかに回答
 「5 ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」
 「6 ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」
 「7 自室からは出るが、家からは出ない」
 「8 自室からほとんど出ない」

かつ

問27（ひきこもりの状態になってからの期間）の質問で、次のいずれかに回答
 「2 6か月～1年未満」「3 1年～3年未満」「4 3年～5年未満」
 「5 5年～7年未満」「6 7年以上」

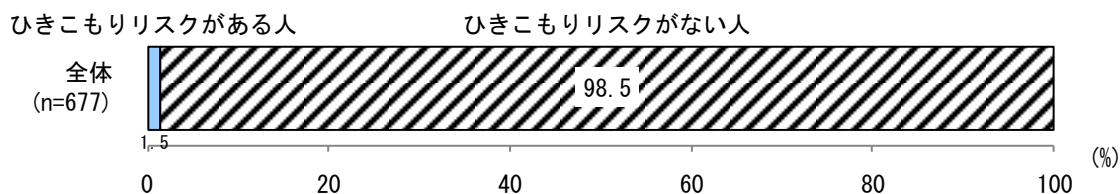
※ただし、上記のうち、次に該当する人は除く

- ・問29（ひきこもり状態になったきっかけ）の質問で、次のいずれかに回答
 「8 病気」「9 妊娠した」「11 その他」を選択し「自宅で仕事をしている旨や出産・育児をしている旨を記入している場合
- ・問23（自宅でよくしていること）の質問で、「8 家事・育児」をする」と回答

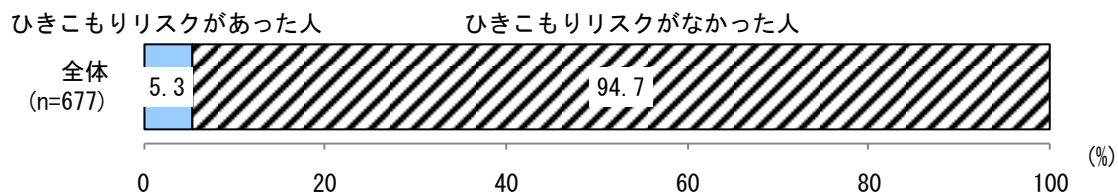
上記の定義に基づき、ひきこもりリスクが高いと考えられる人の集計結果は次のとおりである。

回答者全体では、現在「ひきこもりリスクがある人」は1.5%（10人）となっている。

□ひきこもりリスクがある人（現在）



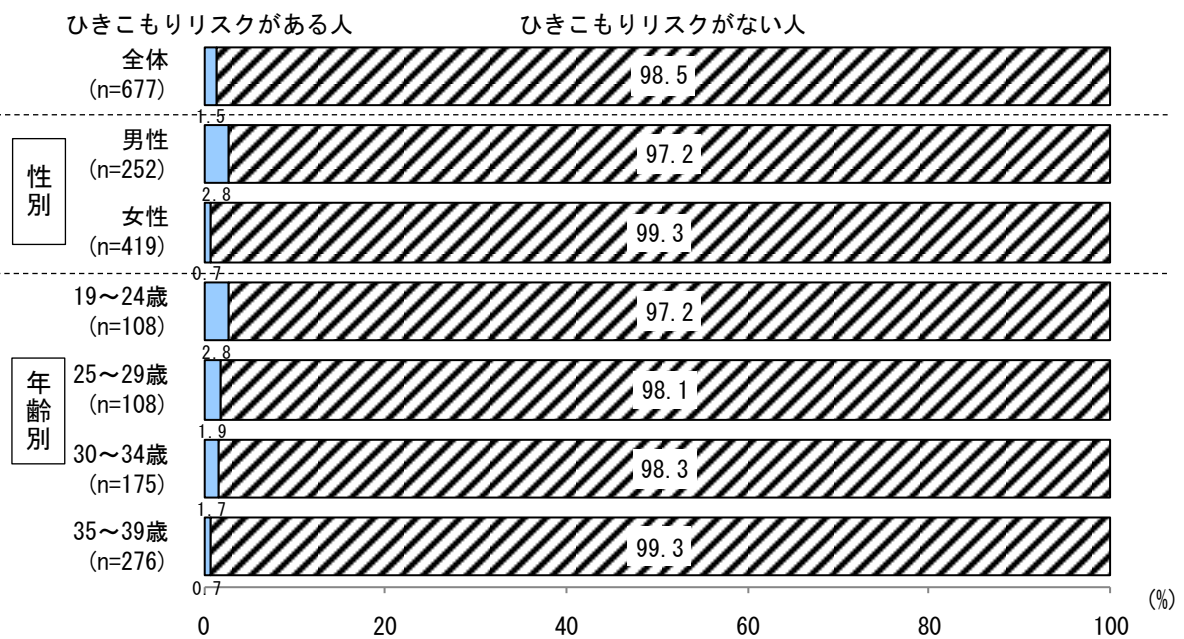
【参考】ひきこもりリスクがあった人（過去ひきこもり状態にあった人）



※過去ひきこもり状態にあった人の集計は、問38、問40、問41に基づく。

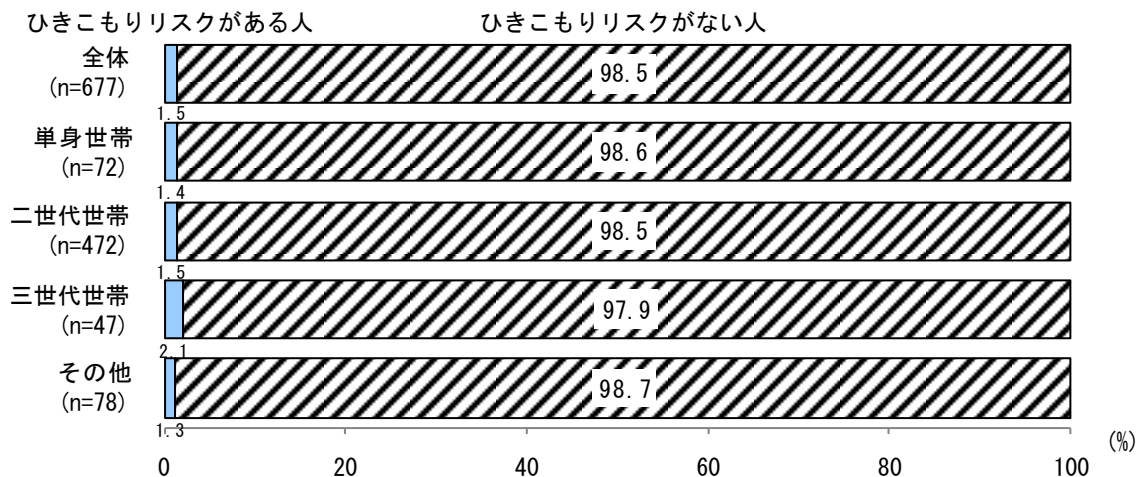
性別では、「ひきこもりリスクがある人」は、男性では2.8%、女性0.7%となっている。
 年代別では、19～24歳が2.8%で最も高くなっている。

□性別、年代別



家族構成別では、「ひきこもりリスクがある人」は、三世帯世帯が2.1%で最も高くなっている。

□家族構成別



2 学校に関することについて

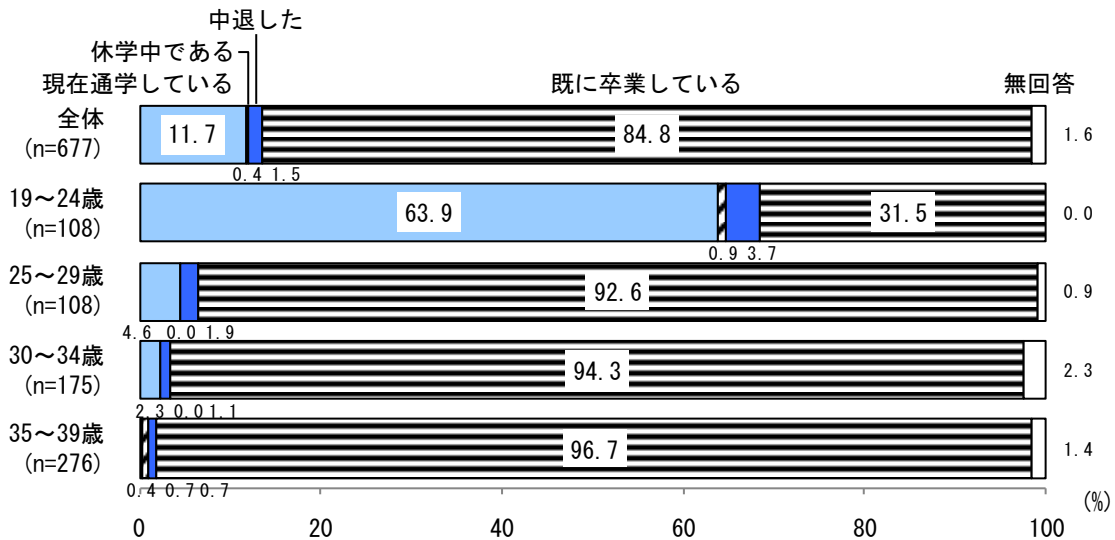
(1) 通学の状況

問13 あなたは、現在、学校に通っていますか。(○は1つ)

全体では、「既に卒業している」が84.8%を占めている。「現在通学している」は11.7%である。

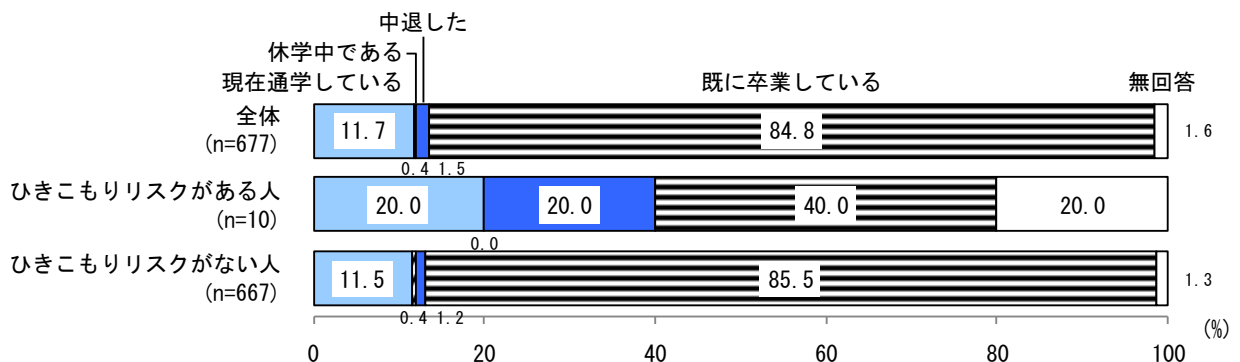
「現在通学している」割合は、19～24歳が63.9%で最も高くなっている。

□性別、年代別



ひきこもりリスクがある人(10人)のうち、「現在通学している」「休学中」が各2人(20.0%)となっている。

□ひきこもりリスクの有無別

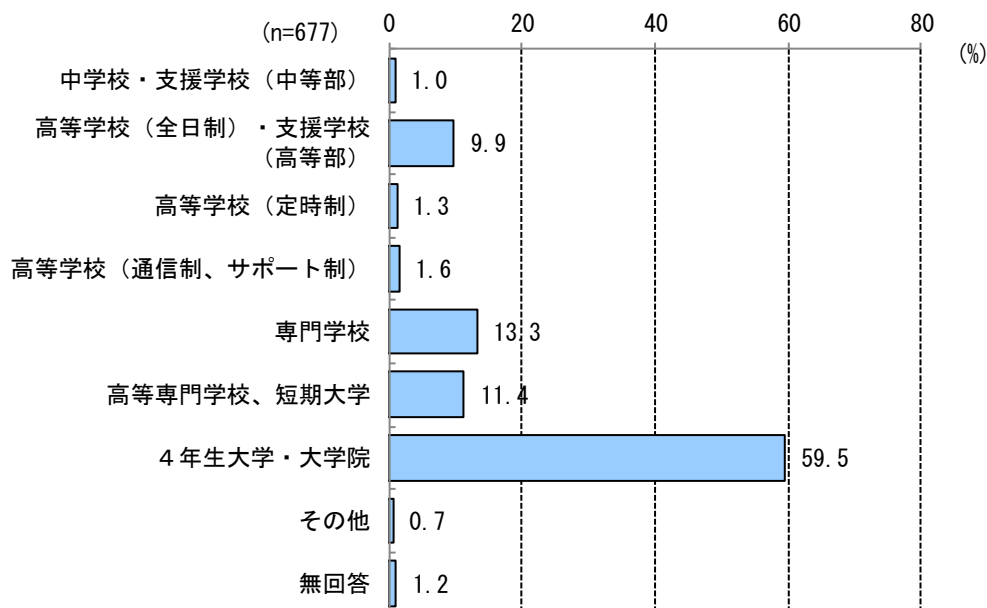


(2) 最後に通学または現在在学している学校

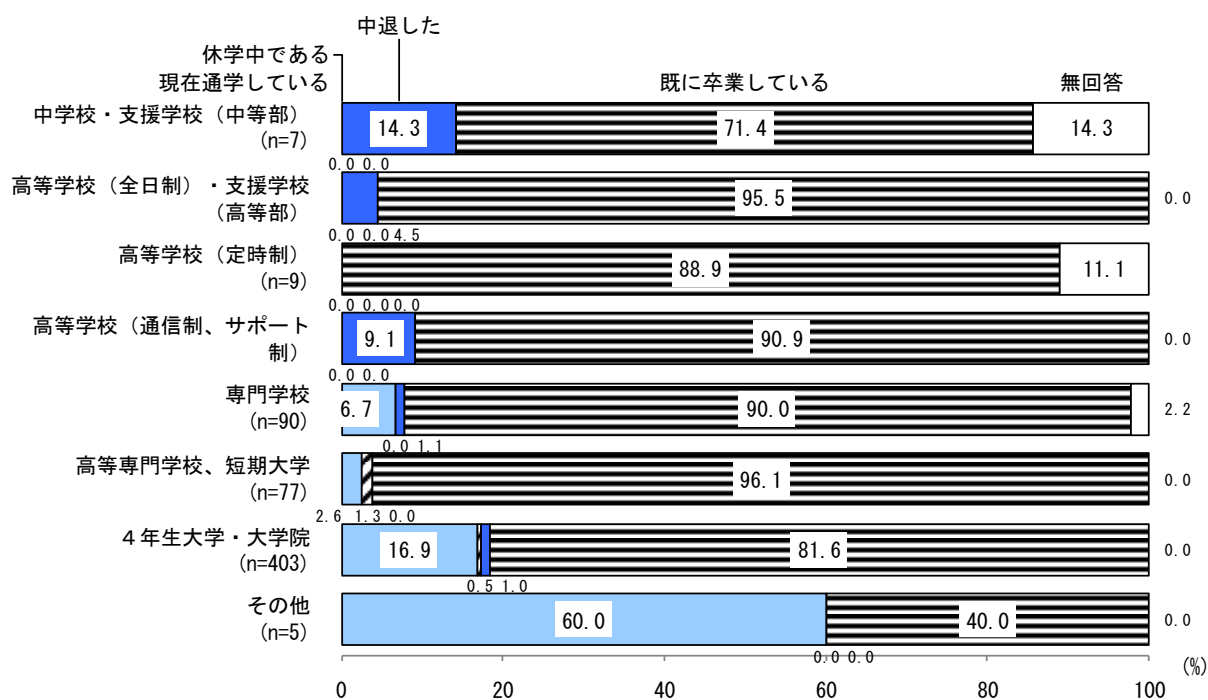
問14 あなたが最後に在学していた、または現在在学している学校はどれですか。
(○は1つ)

「4年生大学・大学院」が59.5%で最も多い。これに次いで「専門学校」(13.3%)で、以下、「高等専門学校、短期大学」(11.4%)、「高等学校(全日制)・支援学校(高等部)」(9.9%)である。

通学状況を見ると、いずれの学校も「既に卒業している」割合がその他を除き7割以上を占めている。「現在通学している」は4年生大学・大学院が16.9%、「中退した」は中学校・支援学校(中等部)が14.3%でそれぞれ最も高い。



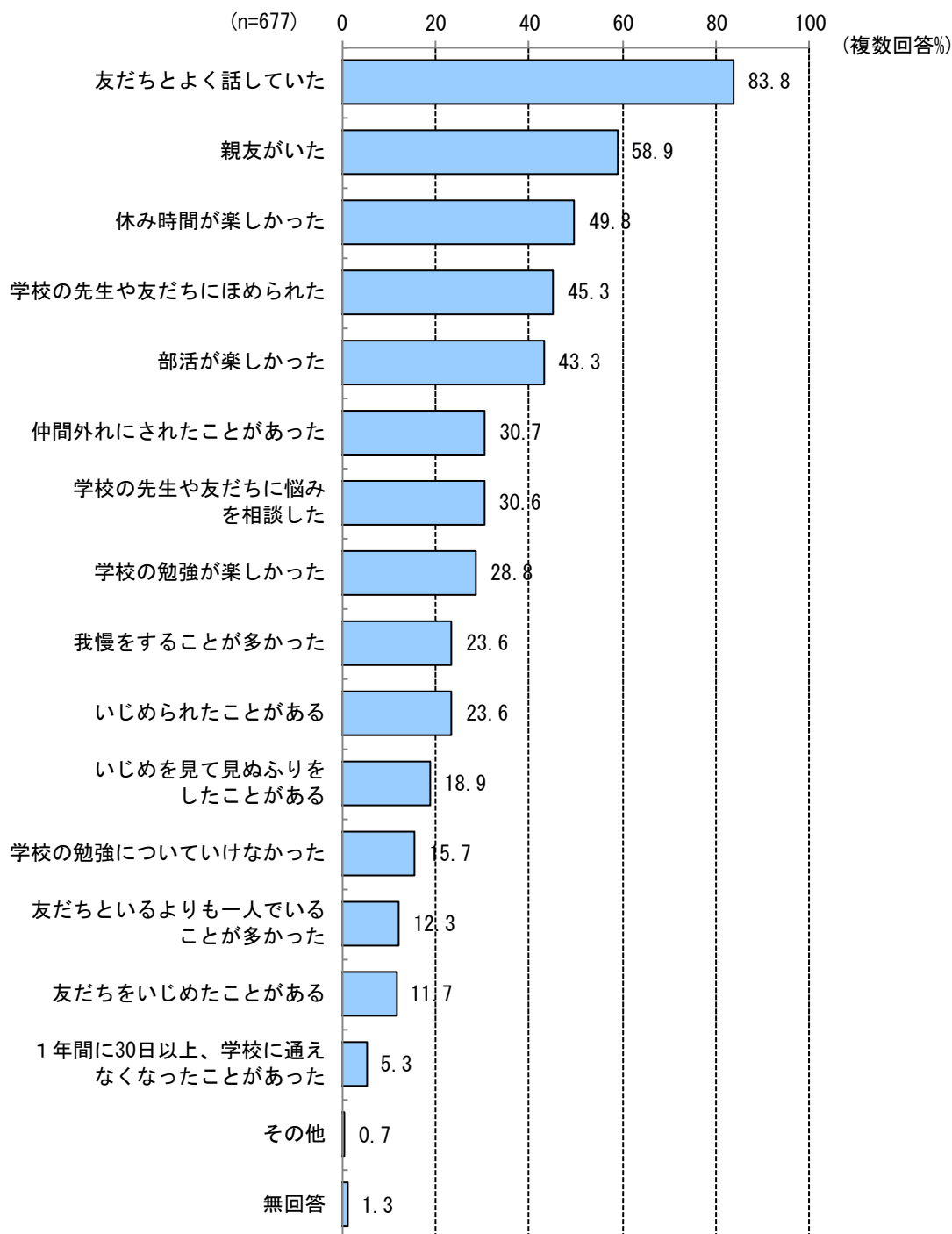
□通学校別通学状況



(3) 今までに学校で経験したこと

問15 あなたは、今までに学校で次のようなことを経験したことがありますか。
(〇はいくつでも)

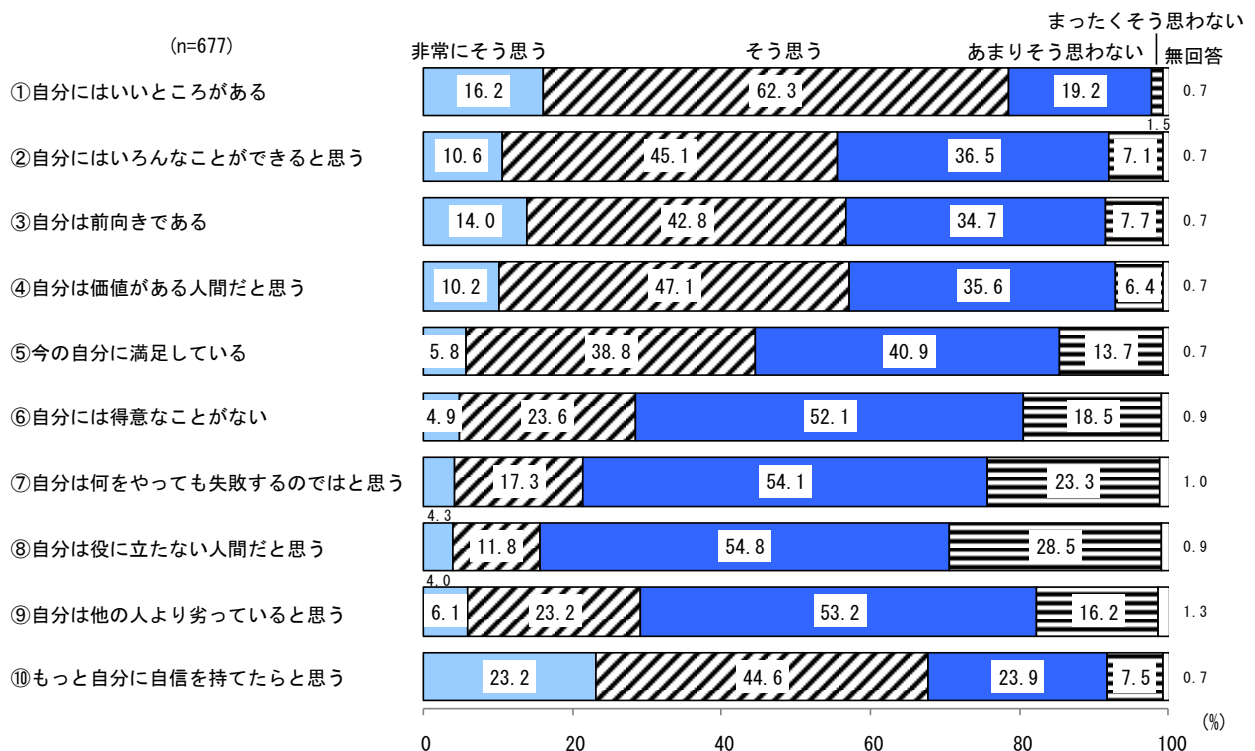
「友だちとよく話していた」が83.8%で最も多く、これに次いで「親友がいた」(58.9%)で、以下、「休み時間が楽しかった」(49.8%)、「学校の先生や友だちにほめられた」(45.3%)、「部活が楽しかった」(43.3%)が続いている。



3 自分自身に関することについて

問16 次にあげられたことについて、あなた自身にあてはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれに1つ)

そう思う(「非常にそう思う」と「そう思う」の割合の合計)とそう思わない(「まったくそう思わない」と「あまりそう思わない」の割合の合計)との差をみると、「⑤今の自分に満足している」は、そう思うに比べ、そう思わないの割合が10ポイント高く、「⑩もっと自分に自信を持てたらと思う」については、そう思わないに比べそう思うの割合のほうが36.4ポイント上回っている。



□ 「そう思う計」と「そう思わない計」の差 (①～⑤は a - b、⑥～⑩は b - a)

	a そう思う (%)	b そう思わない (%)	①と②との差 (%)
①自分にはいいところがある	78.5	20.7	57.8
②自分にはいろんなことができると思う	55.7	43.6	12.1
③自分は前向きである	56.8	42.4	14.4
④自分は価値がある人間だと思う	57.3	42.0	15.3
⑤今の自分に満足している	44.6	54.6	▲ 10.0
⑥自分には得意なことがない	28.5	70.6	42.1
⑦自分は何をやっても失敗するのではと思う	21.6	77.4	55.8
⑧自分は役に立たない人間だと思う	15.8	83.3	67.5
⑨自分は他の人より劣っていると思う	29.3	69.4	40.1
⑩もっと自分に自信を持てたらと思う	67.8	31.4	▲ 36.4

年代別で、そう思うとそう思わないとの差をみた。

19～24歳は、「②自分にはいろんなことができると思う」「③自分は前向きである」「④自分は価値がある人間だと思う」の各意見については、そう思わないの割合がそう思うをやや上回っている。「⑤今の自分に満足している」は、そう思うに比べ、そう思わないの割合が29.6ポイント高く、「⑩もっと自分に自信を持てたらと思う」については、そう思わないに比べそう思うの割合のほうが53.6ポイント上回っている。

25～29歳は、「⑤今の自分に満足している」は、そう思うに比べもそう思わないの割合が6.5ポイント高く、「⑩もっと自分に自信を持てたらと思う」については、そう思わないに比べそう思うの割合のほうが56.5ポイント上回っている。

29～34歳、35～39歳も、「⑤今の自分に満足している」では、そう思うに比べもそう思わないの割合が高く、また「⑩もっと自分に自信を持てたらと思う」は、そう思わないに比べそう思うの割合のほうが高くなっている。

□年齢別【「そう思う計」と「そう思わない計」の差（①～⑤はa－b、⑥～⑩はb－a）】

【19～24歳】

	a そう思う	b そう思わない	①と②との差
①自分にはいいところがある	69.5	30.6	38.9
②自分にはいろんなことができると思う	48.2	51.8	▲ 3.6
③自分は前向きである	45.4	54.6	▲ 9.2
④自分は価値がある人間だと思う	49.1	50.9	▲ 1.8
⑤今の自分に満足している	35.2	64.8	▲ 29.6
⑥自分には得意なことがない	37.1	63.0	25.9
⑦自分は何をやっても失敗するのではと思う	37.1	63.0	25.9
⑧自分は役に立たない人間だと思う	24.1	76.0	51.9
⑨自分は他の人より劣っていると思う	42.6	57.4	14.8
⑩もっと自分に自信を持てたらと思う	76.8	23.2	▲ 53.6

【25～29歳】

	a そう思う	b そう思わない	①と②との差
①自分にはいいところがある	76.8	22.2	54.6
②自分にはいろんなことができると思う	53.7	45.4	8.3
③自分は前向きである	54.6	44.4	10.2
④自分は価値がある人間だと思う	52.8	46.3	6.5
⑤今の自分に満足している	46.3	52.8	▲ 6.5
⑥自分には得意なことがない	33.4	65.7	32.3
⑦自分は何をやっても失敗するのではと思う	24.1	74.1	50.0
⑧自分は役に立たない人間だと思う	21.3	77.8	56.5
⑨自分は他の人より劣っていると思う	30.5	68.6	38.1
⑩もっと自分に自信を持てたらと思う	77.8	21.3	▲ 56.5

□年齢別「「そう思う計」と「そう思わない計」の差（①～⑤はa－b、⑥～⑩はb－a）」

【30～34 歳】

(%)

	a そう思う	b そう思わない	①と②との差
①自分にはいいところがある	78.3	20.6	57.7
②自分にはいろんなことができると思う	60.0	38.8	21.2
③自分は前向きである	58.3	40.5	17.8
④自分は価値がある人間だと思う	60.5	38.3	22.2
⑤今の自分に満足している	48.0	50.9	▲ 2.9
⑥自分には得意なことがない	23.4	75.4	52.0
⑦自分は何をやっても失敗するのではと思う	20.0	78.8	58.8
⑧自分は役に立たない人間だと思う	17.1	81.8	64.7
⑨自分は他の人より劣っていると思う	31.5	66.9	35.4
⑩もっと自分に自信を持てたらと思う	66.3	32.5	▲ 33.8

【35～39 歳】

(%)

	a そう思う	b そう思わない	①と②との差
①自分にはいいところがある	84.0	15.9	68.1
②自分にはいろんなことができると思う	57.2	42.7	14.5
③自分は前向きである	62.3	37.7	24.6
④自分は価値がある人間だと思う	60.9	39.1	21.8
⑤今の自分に満足している	45.2	54.7	▲ 9.5
⑥自分には得意なことがない	26.8	72.9	46.1
⑦自分は何をやっても失敗するのではと思う	15.2	84.5	69.3
⑧自分は役に立たない人間だと思う	9.1	90.5	81.4
⑨自分は他の人より劣っていると思う	21.4	77.5	56.1
⑩もっと自分に自信を持てたらと思う	61.6	38.4	▲ 23.2

4 仕事について

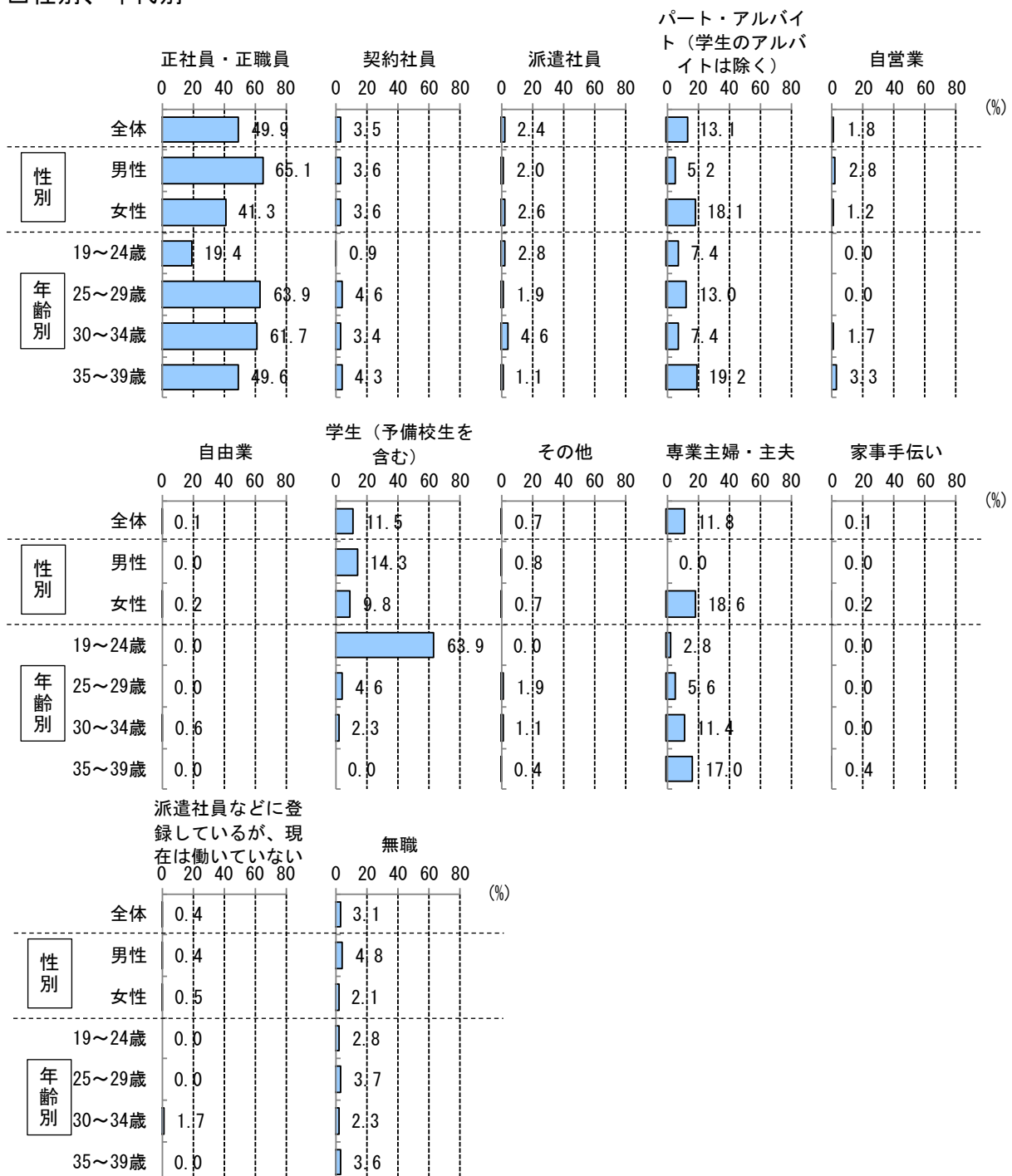
(1) 現在の職業

問17 あなたの現在の職業についてお答えください。(○は1つ)

現在の職業は、全体では「正社員・正職員」が49.9%で最も多い。これに次いで「パート・アルバイト（学生のアルバイトは除く）」が13.1%となっており、「契約社員」（3.5%）、「派遣社員」（2.4%）を合わせた非正規雇用は19.0%となっている。一方、「専業主婦・主夫」は11.8%、「学生（予備校生を含む）」は11.5%、「無職」（3.1%）となっている。

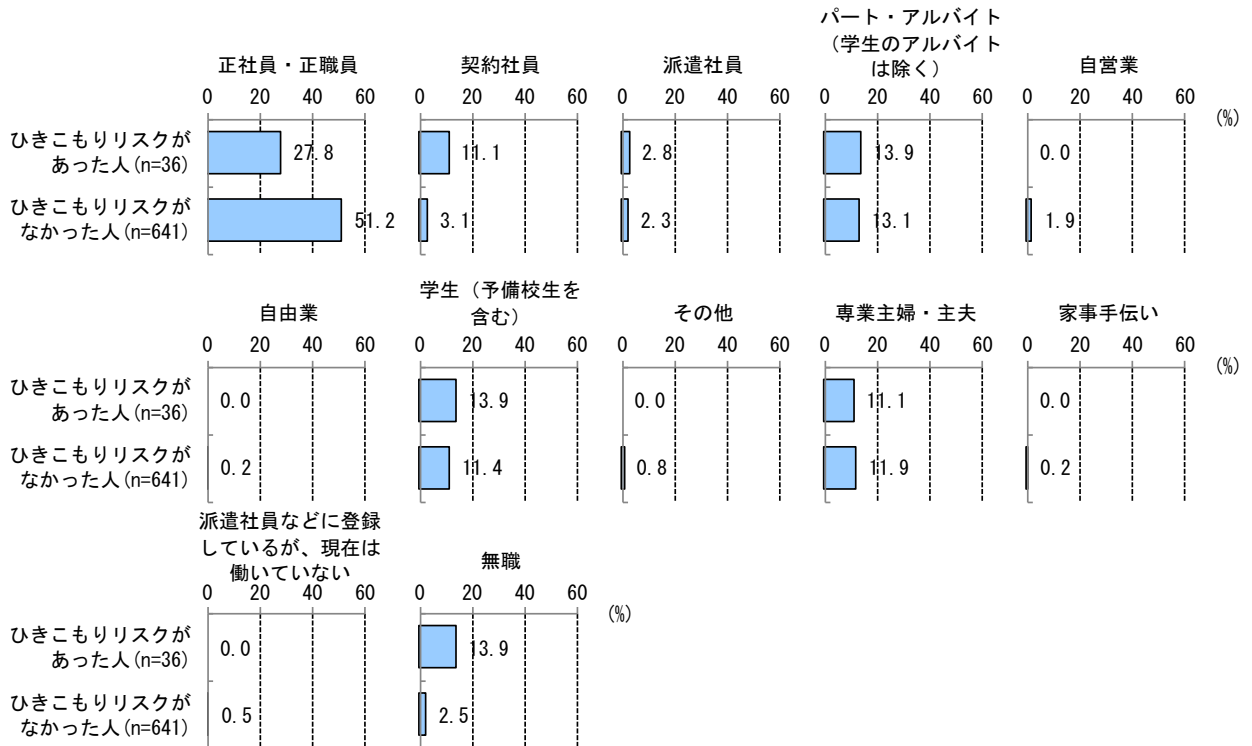
「正社員・正職員」は女性に比べ男性が高く、年齢が高くなるほど低下している。「パート・アルバイト」の割合は、性別では女性、年齢では35～39歳が高い。

□性別、年代別



過去ひきこもりのリスクがあった人の現在の職業は、「正社員・正職員」が 27.8%で最も多く、非正規雇用を含む就労割合は 55.6%となっている。(ひきこもりリスクがなかった人の就労割合は 71.8%)

□過去のひきこもりリスクの有無別



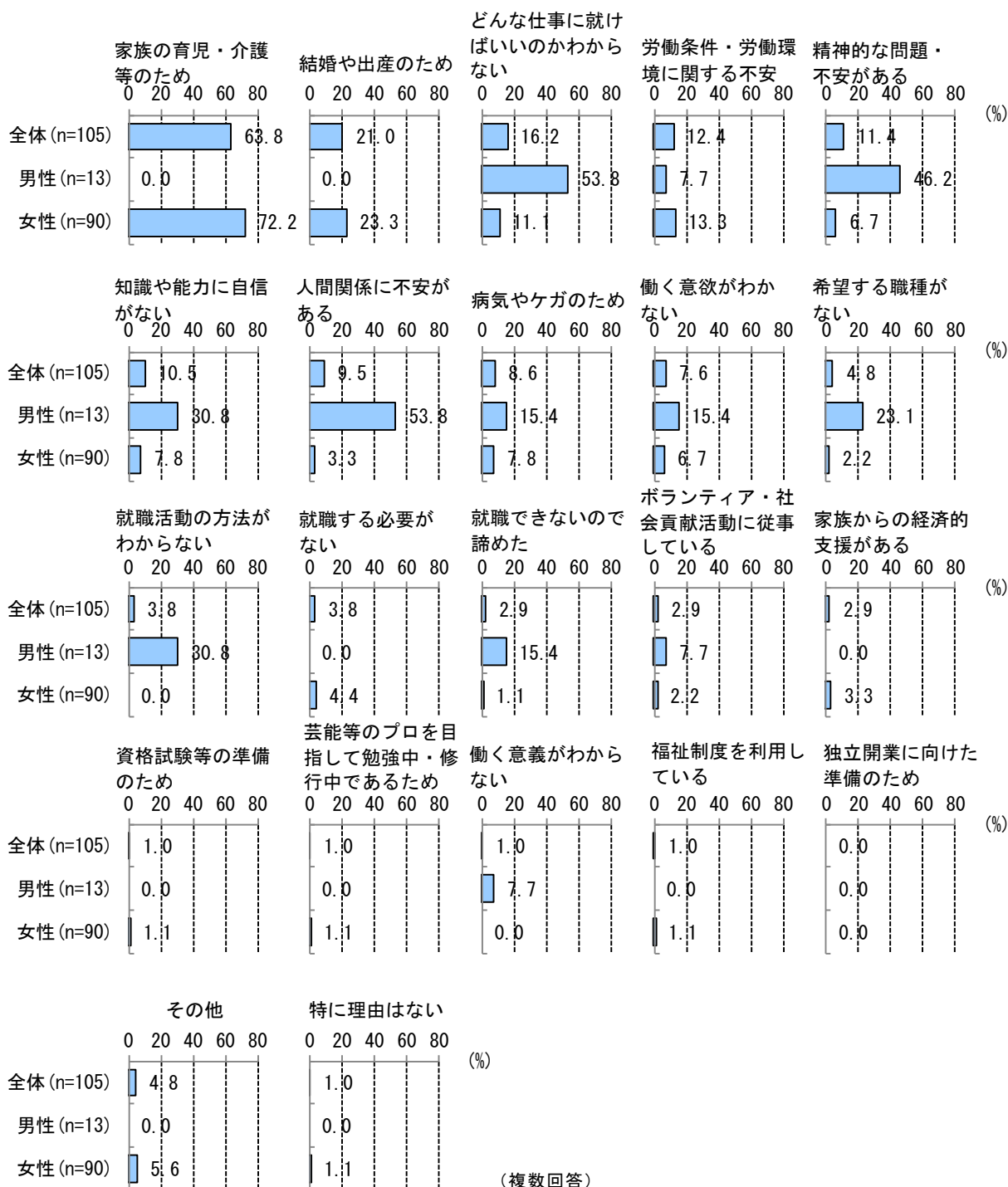
(2) 現在働いていない理由

問18 あなたが、現在働いていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

仕事をしていない人に、現在働いていない理由についてたずねると、全体では、「家族の育児・介護等のため」が63.8%で最も多い。これに次いで「結婚や出産のため」が21.0%で、以下、「どんな仕事に就けばいいのかわからない」(16.2%)、「労働条件・労働環境に関する不安」(12.4%)、「精神的な問題・不安がある」(11.4%)、「知識や能力に自信がない」(10.5%)が続いている。

女性は「家族の育児・介護等のため」(72.2%)が最も多く、次いで「結婚や出産のため」(23.3%)となっている。

□性別



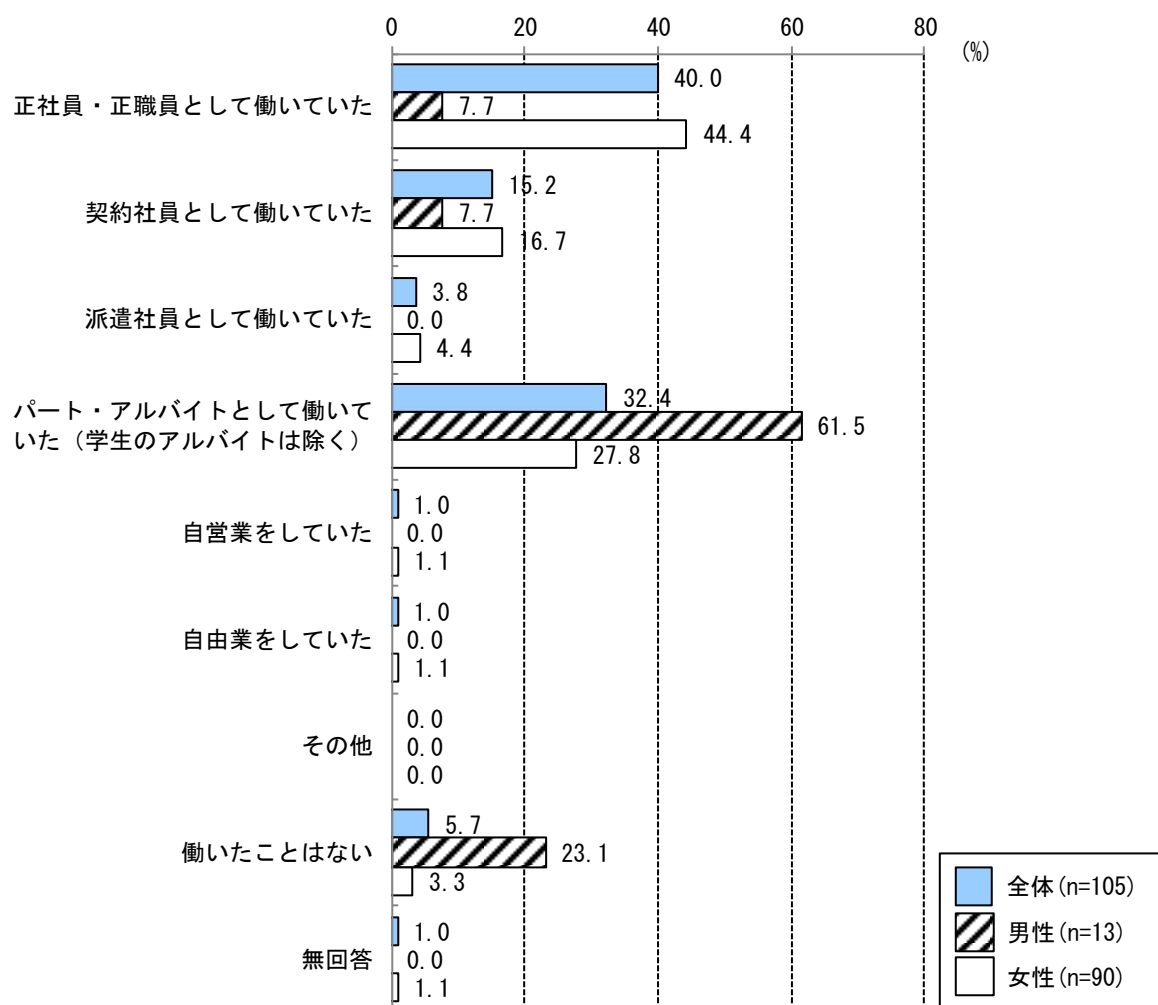
(3) 現在働いていない人の就労経験

問19 あなたは、「専業主婦・主夫」や「家事手伝い」「派遣社員などに登録しているが、現在は働いていない」「無職」になる直前は働いていましたか。(〇は1つ)

現在働いていない人の過去の就労経験をみると、全体は「正社員・正職員として働いていた」が40.0%となっている。これに次いで「パート・アルバイトとして働いていた（学生のアルバイトは除く）」(32.4%)が多い。

「正社員・正職員として働いていた」は、男性(7.7%)に比べ、女性(44.4%)の割合が高い。逆に「パート・アルバイトとして働いていた」の割合は、女性(27.8%)に比べ、男性(61.5%)が高くなっている。

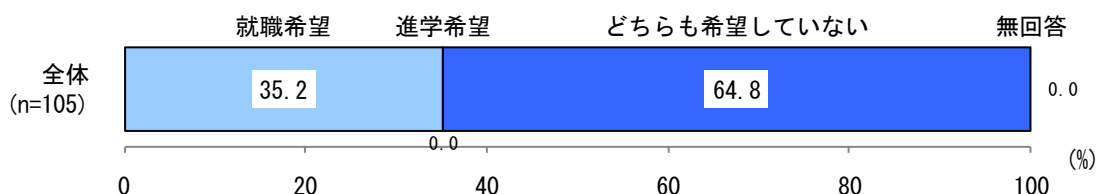
□性別



(4) 就職または進学希望の有無

問20 現在、就職または進学を希望していますか。(○は1つ)

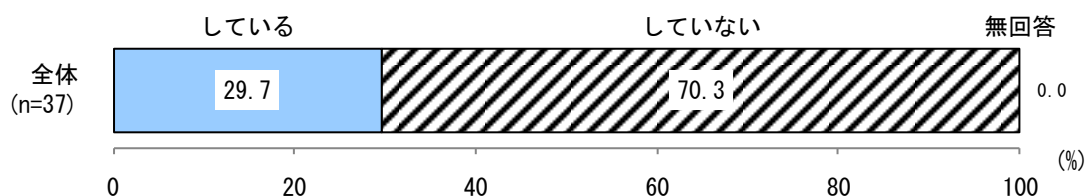
現在働いていない人の就職または進学の希望状況は、「就職希望」が35.2%で、「どちらも希望していない」が64.8%となっている。



(5) 就職活動の状況

問21 現在、就職活動をしていますか。(○は1つ)

問20で就職希望と回答した人に、就職活動の状況をたずねると、「している」が29.7%に対し、「していない」が70.3%となっている。

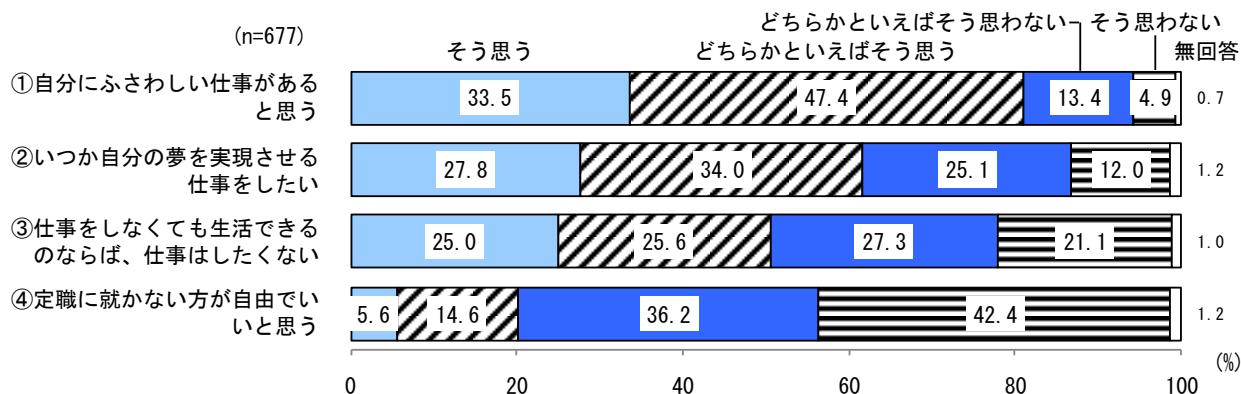


(6) 職業に関する意見に対する考え

問22 次にあげられた職業に関する意見の中で、あなたの考えにあてはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれに1つ)

『そう思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合の合計)の割合で見ると、「①自分にふさわしい仕事があると思う」は80.9%、「②いつか自分の夢を実現させる仕事をしたい」は61.8%で、『そう思わない』(「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の割合の合計)の割合を大きく上回っている。

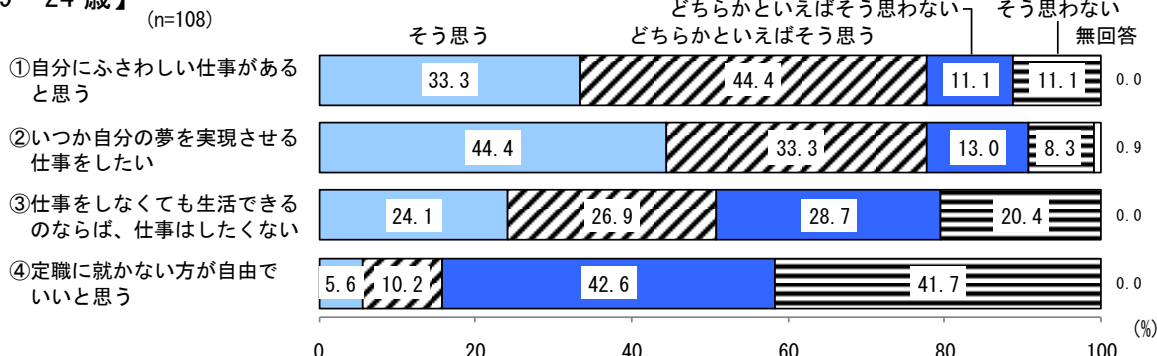
「③仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない」は、『そう思う』の割合は50.6%に対し『そう思わない』の割合は48.4%で意見が分かれている。「④定職に就かない方が自由でいいと思う」については、『そう思わない』の割合が78.6%で、『そう思う』の割合(20.2%)を大きく上回っている。



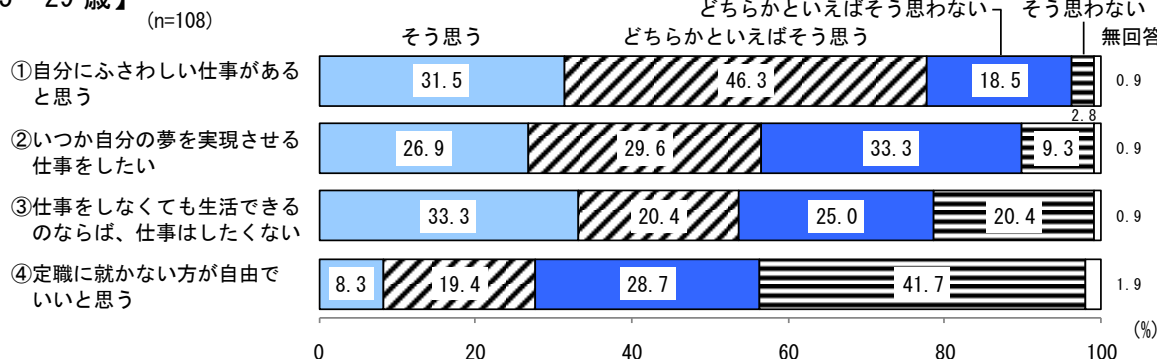
年代別でみると、「①自分にふさわしい仕事があると思う」に対し『そう思う』割合がいずれの年代も8割前後を占めている。「②いつか自分の夢を実現させる仕事をしたい」に対し『そう思う』割合は、19～24歳は77.7%となっているが、25歳以上の年代では6割前後に低下し、『そう思わない』の割合が増加している。「③仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない」に対し『そう思う』割合は各年代とも5割前後となっているが、「④定職に就かない方が自由でいいと思う」に対しては『そう思わない』の割合が『そう思う』を大きく上回っている。

□年代別

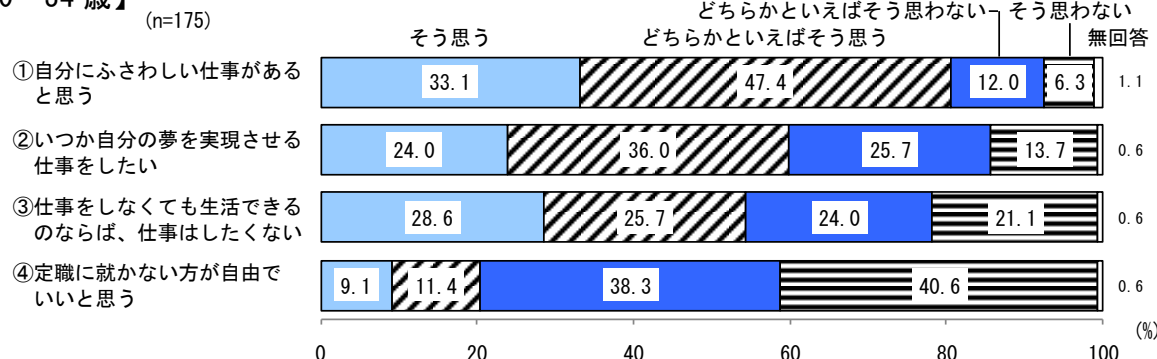
【19～24歳】



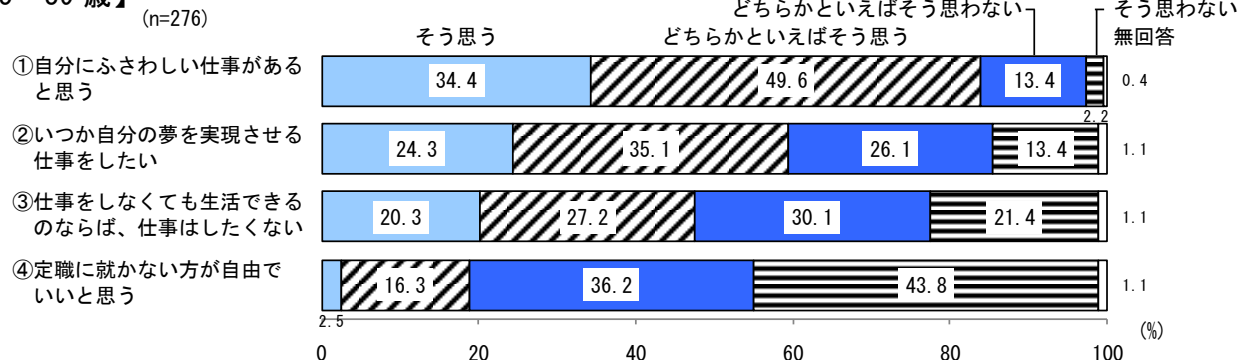
【25～29歳】



【30～34歳】



【35～39歳】



5 ふだんの過ごし方について

(1) 自宅でよくしていること

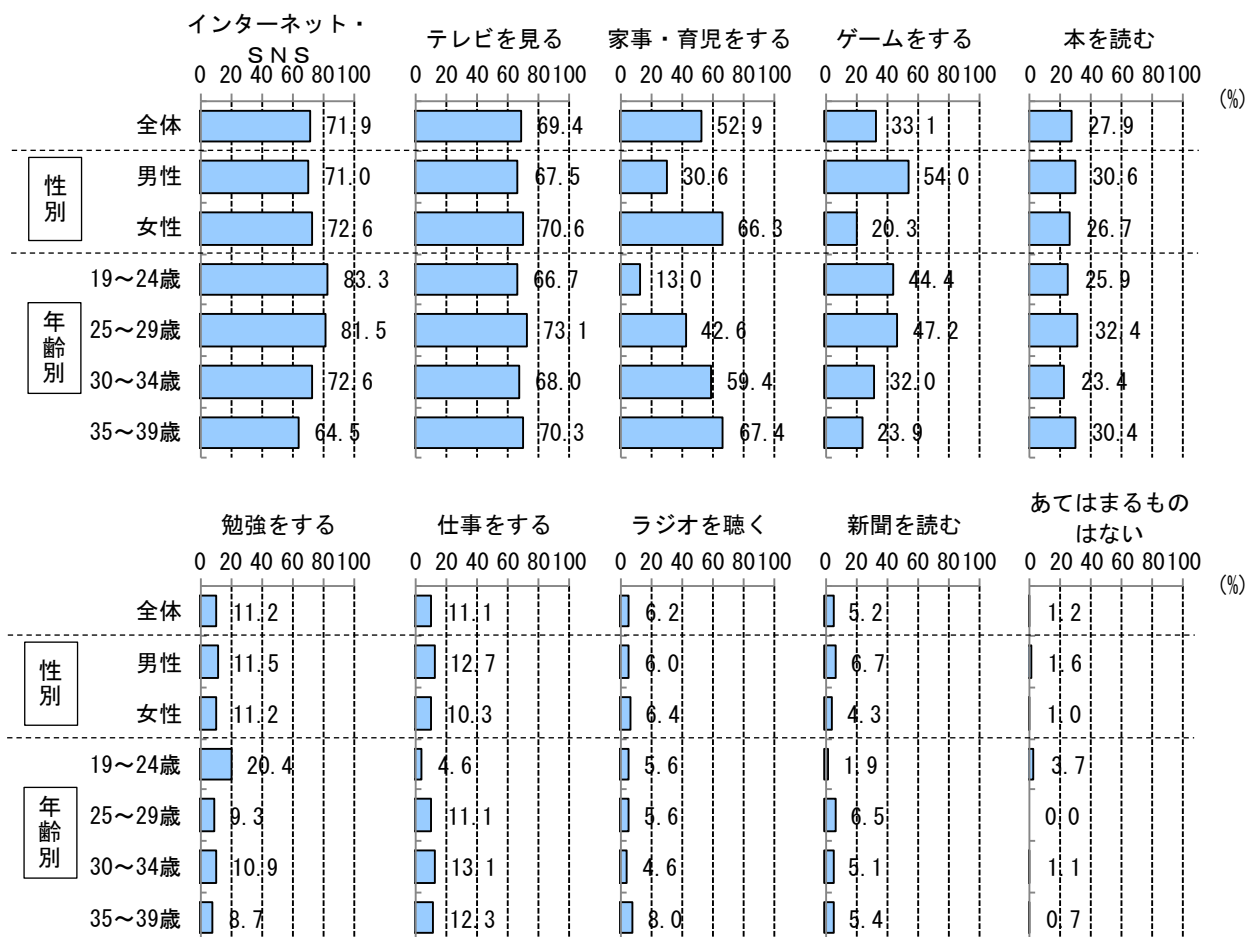
問23 あなたがふだんご自宅にいるときによくしていることをお答えください。(〇はいくつでも)

「インターネット・SNS」が71.9%で最も多く、次いで「テレビを見る」が69.4%となっている。以下、「家事・育児をする」(52.9%)、「ゲームをする」(33.1%)、「本を読む」(27.9%)となっている。

男女とも「インターネット・SNS」が最も多い。「家事・育児をする」は、男性(30.6%)に比べ女性(66.3%)のほうが35.7ポイント高く、逆に「ゲームをする」は、女性(20.3%)に比べ男性(54.0%)のほうが33.7ポイント高い。

年代別では、「インターネット・SNS」は、19～34歳までの年代で最も多く、19～29歳では8割を占め、「ゲームをする」も、19～29歳までの各年代で高い。35～39歳の年代は、「インターネット・SNS」の割合は最も低く、「家事・育児をする」が67.4%で最も高い。

□性別、年代別



(複数回答)

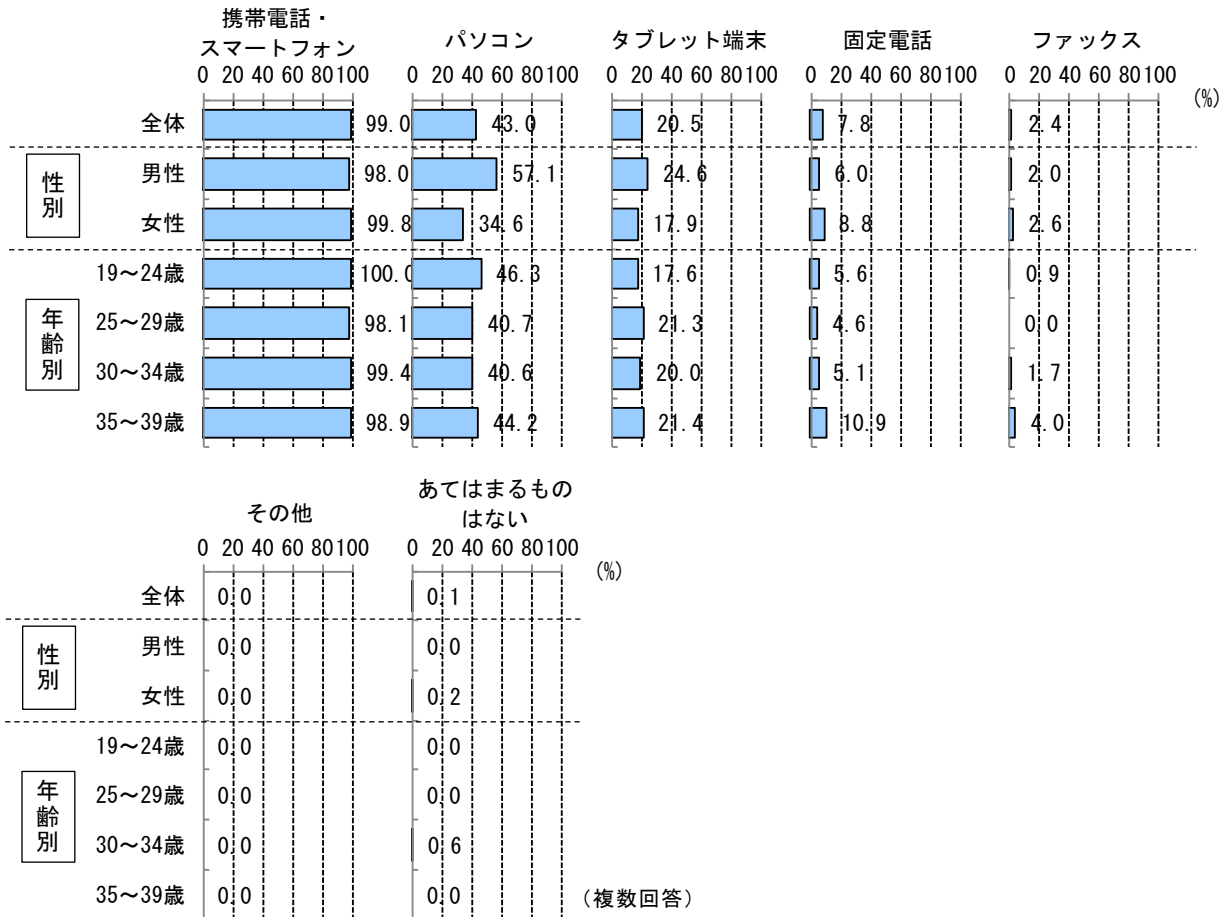
(2) ふだん利用している通信機器

問24 あなたがふだん利用している通信機器をお答えください。(〇はいくつでも)

全体では、「携帯電話・スマートフォン」が99.0%を占め最も多い。これに次いで「パソコン」(43.0%)、「タブレット端末」(20.5%)である。

「携帯電話・スマートフォン」は年代に関係なく、回答者のほぼ全員が利用している。

□性別、年代別



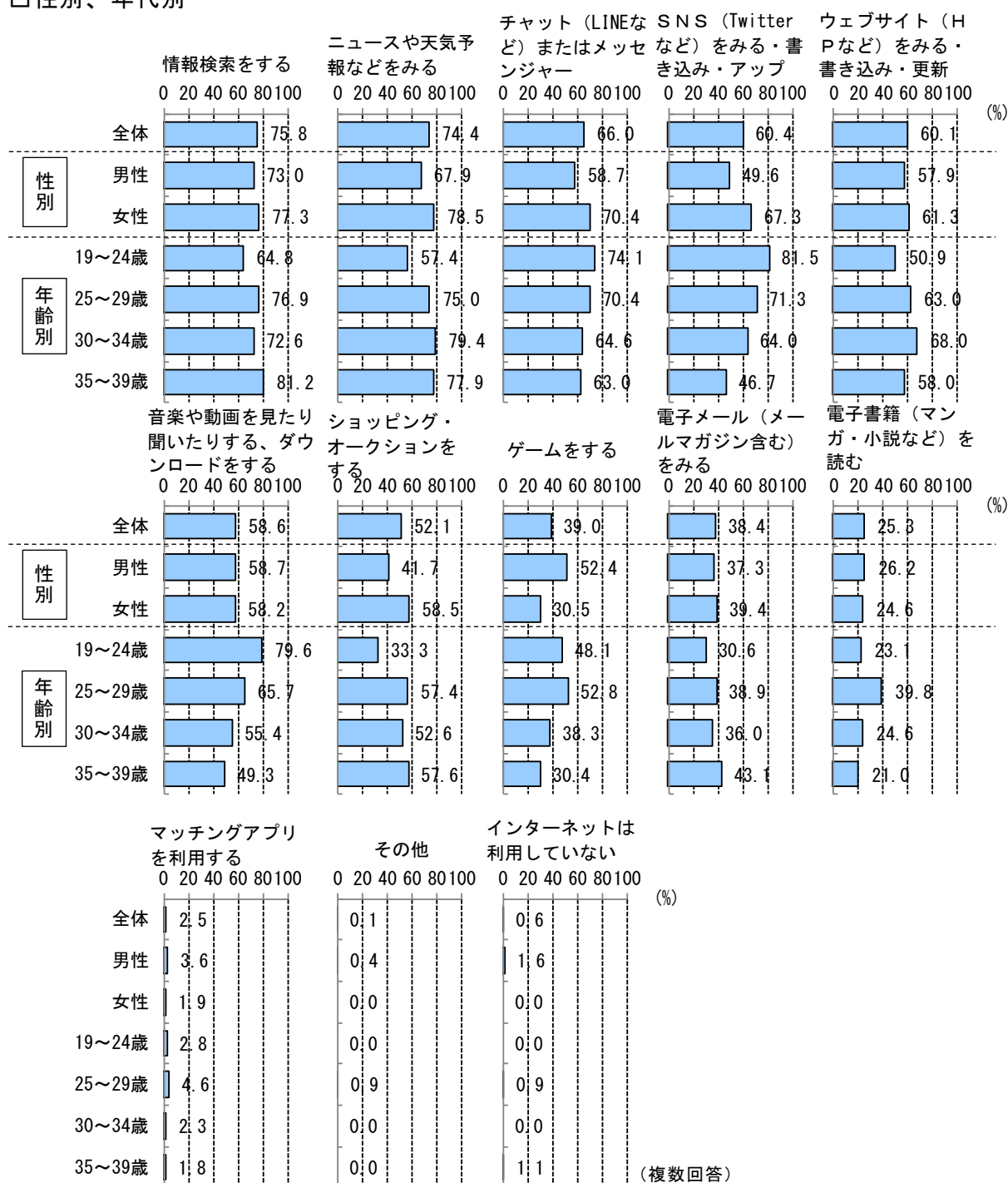
(3) インターネットの利用状況（目的）

問25 あなたは、ふだんインターネットを利用していますか。利用している場合、どのような目的で利用していますか。（〇はいくつでも）

インターネットの利用状況（目的）は、全体では、「情報検索をする」が75.8%で最も多く、次いで「ニュースや天気予報などをみる」が74.4%となっている。以下、「チャット（LINEなど）またはメッセージ」（66.0%）、「SNS（Facebook、Twitter、Instagramなど）をみる・書き込み・アップロード」（60.4%）、「ウェブサイト（HP、掲示板、ブログなど）をみる・書き込み・更新」（60.1%）が続く。

「チャット（LINEなど）またはメッセージ」や「SNS（Facebook、Twitter、Instagramなど）をみる・書き込み・アップロード」は女性の割合が高く、年代では19～24歳で高くなっている。

□性別、年代別

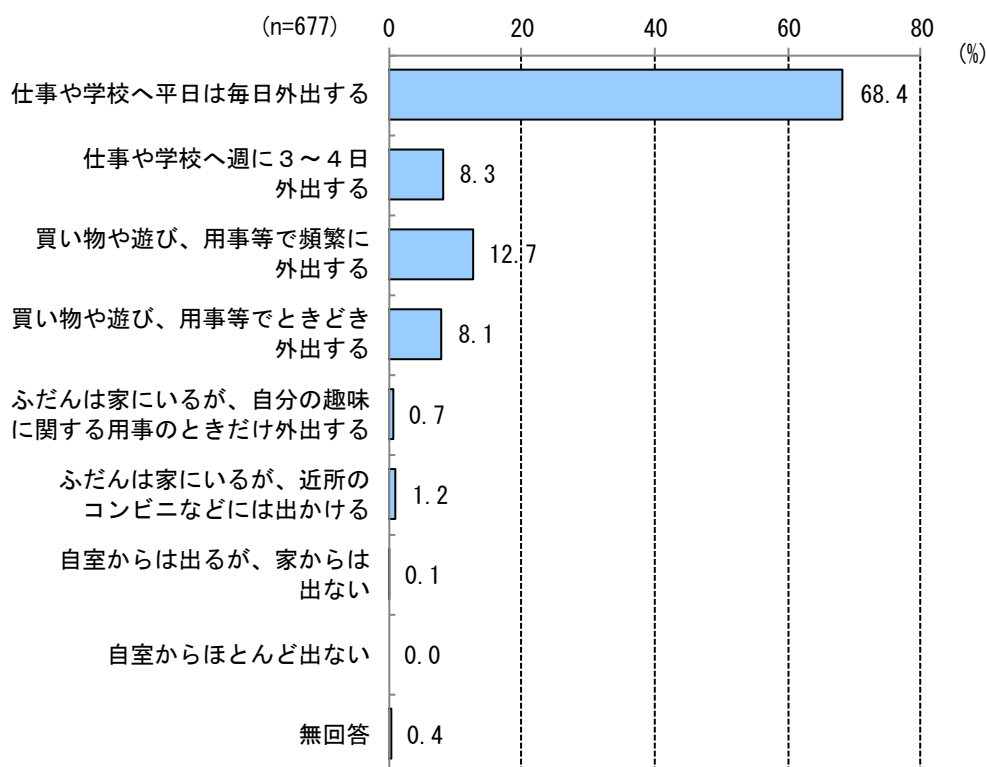


(4) ふだんの外出の頻度

問26 あなたは、ふだんどのくらい外出しますか。(○は1つ)

全体では、「仕事や学校へ平日は毎日外出する」が68.4%で最も多く、次いで「買い物や遊び、用事等で頻繁に外出する」が12.7%、「仕事や学校へ週に3～4日外出する」が8.3%、「買い物や遊び、用事等でときどき外出する」が8.1%となっている。

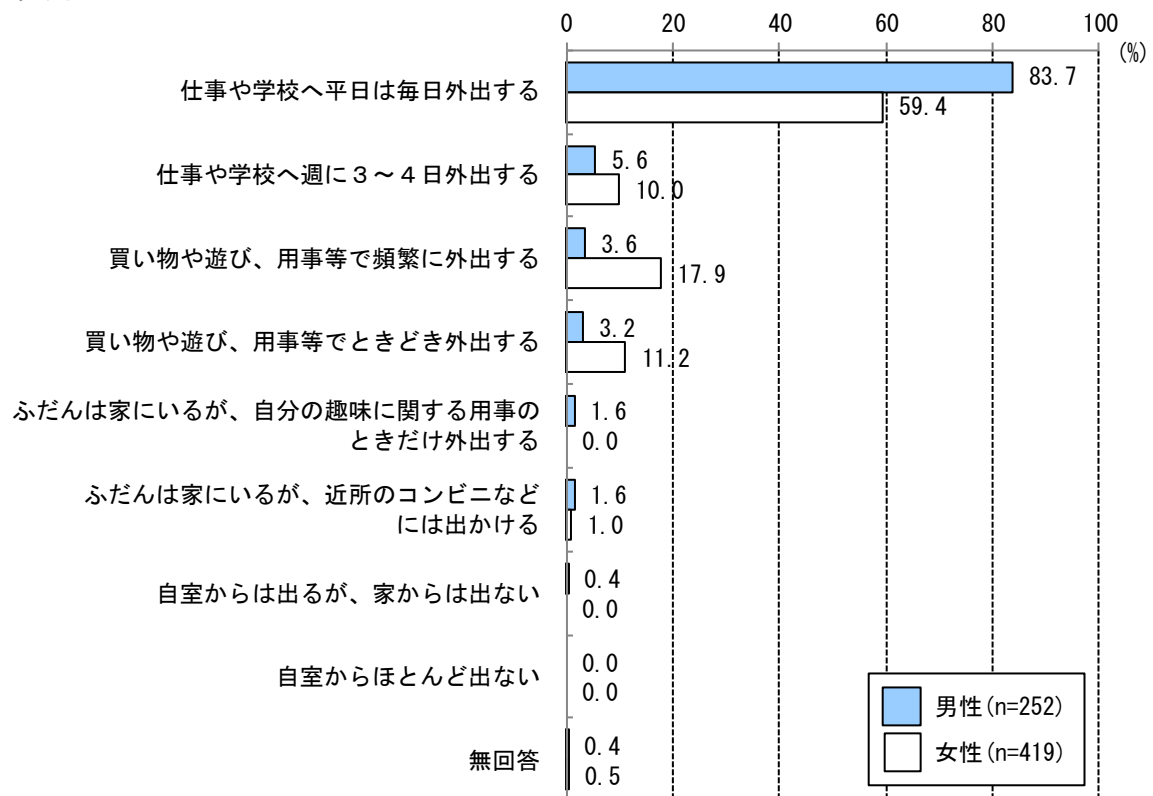
一方、「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「自室からは出るが、家からは出ない」「自室からほとんど出ない」のいずれかを回答し外部とのつながりが少ない傾向のある人は2.0%となっている。



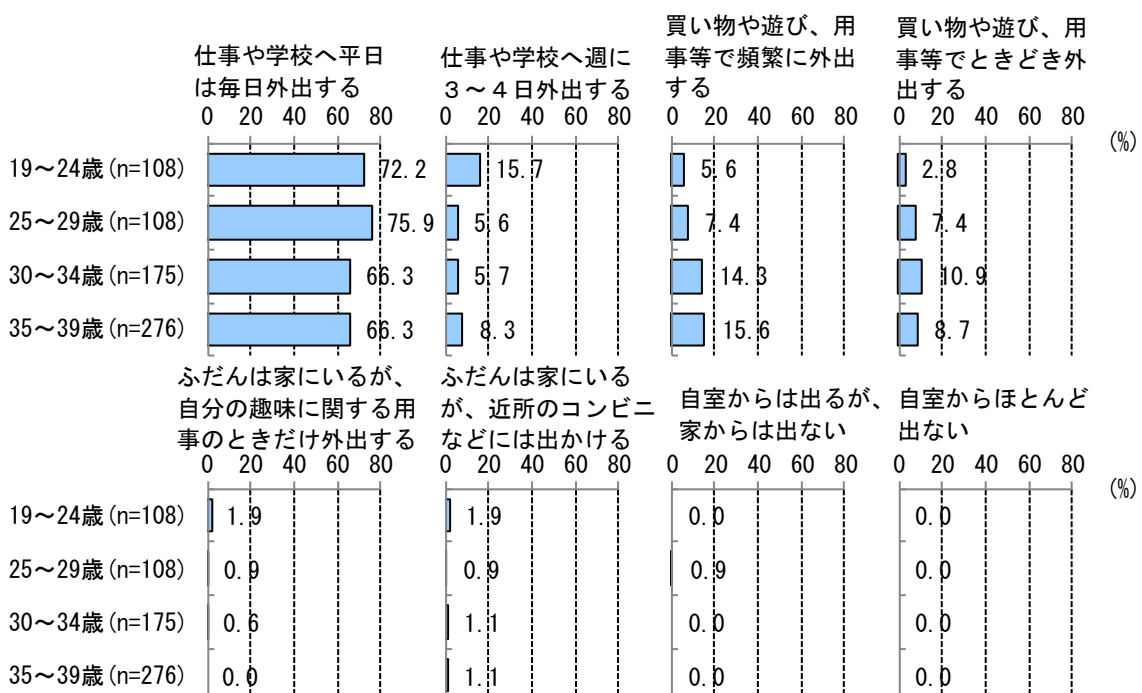
性別では、「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事するときだけ外出する」「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「自室からは出るが、家からは出ない」「自室からほとんど出ない」のいずれかを回答し外部とのつながりが少ない傾向のある人は、男性3.6%、女性1.0%となっている。

年代別では、外部とのつながりが少ない傾向のある人は、19～24歳が3.8%、25～29歳が2.7%、30～34歳が1.7%、35～39歳が1.1%となっている。

□性別



□年代別



6 ひきこもりの状況について

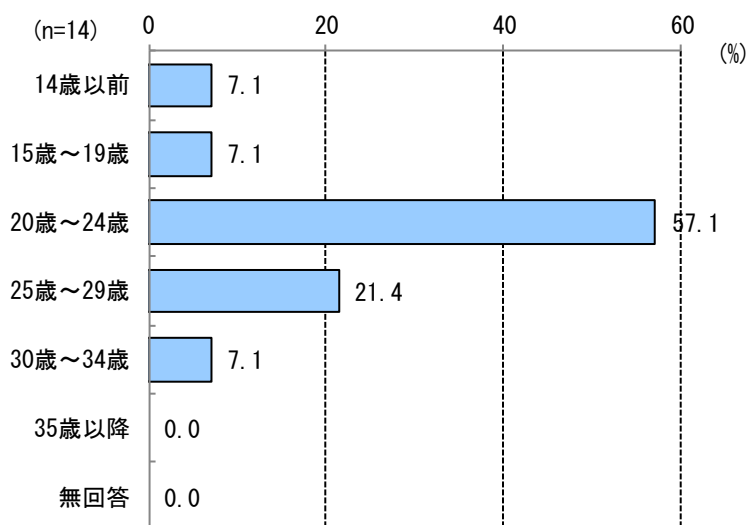
(1) ひきこもりの状態になった年齢

【問26で「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「自室からは出るが、家からは出ない」「自室からほとんど出ない」のいずれかを回答した方に】

問27 現在の状態になったのは、あなたが何歳の頃ですか。

あまり出かけない、またはほとんど外出しない傾向のある人が現在の状態になった年齢は、「20歳～24歳」が57.1%（8人）で最も多く、次いで「25歳～29歳」が21.4%（3人）となっている。

□全体



*（うち）ひきこもりリスクがある人

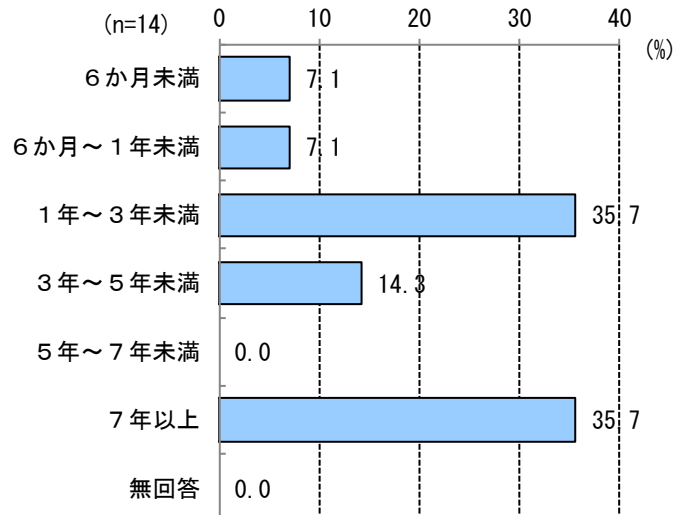
	該当数 (人)	割合 (%)
14歳以前	1	10.0
15歳～19歳	-	-
20歳～24歳	7	70.0
25歳～29歳	1	10.0
30歳～34歳	1	10.0
35歳以降	-	-
計	10	100.0

(2) ひきこもりの状態になってからの期間

問28 現在の状態となって、どのくらい経ちますか。（○は1つ）

ひきこもりの状態になってからの期間は、「1年～3年未満」と「7年以上」が各35.7%（5人）、「3年～5年未満」が14.3%（2人）となっている。

□全体



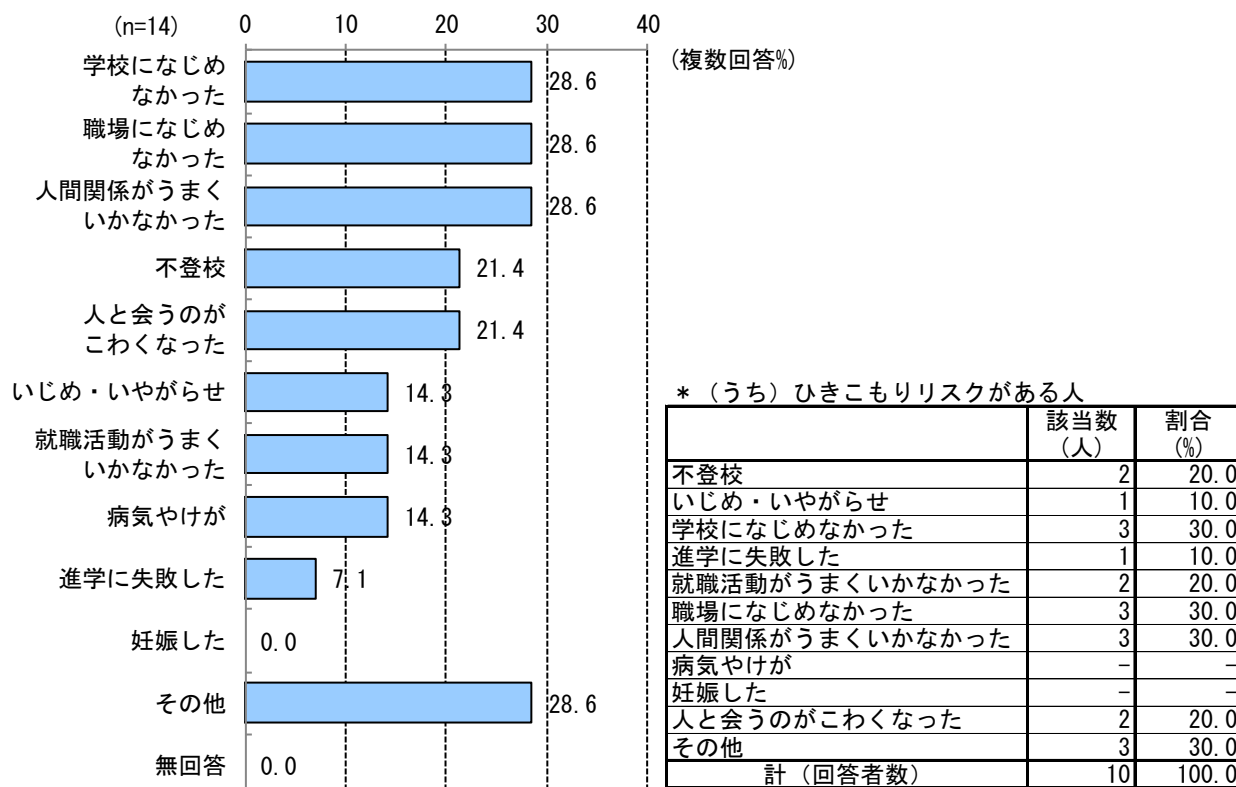
*（うち）ひきこもりリスクがある人

	該当数 (人)	割合 (%)
6か月未満	-	-
6か月～1年未満	-	-
1年～3年未満	4	40.0
3年～5年未満	2	20.0
5年～7年未満	-	-
7年以上	4	40.0
計	10	100.0

(3) ひきこもり状態になったきっかけ

問29 現在の状態になったきっかけは何ですか。(○はいくつでも)

「学校になじめなかった」「職場になじめなかった」「人間関係がうまくいかなかった」各28.6% (4人)が多い。

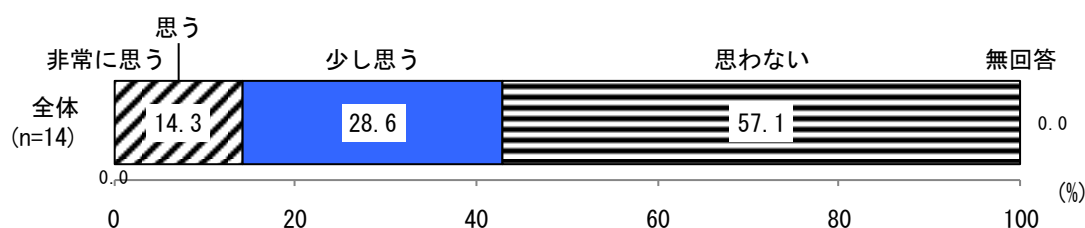


(4) ひきこもり状態についての相談

① ひきこもり状態についての相談意向

問30 現在の状態について、家族や友人・先生等身近な方以外に相談したいと思いませんか。(○は1つ)

現在の状態について相談したいと思う割合(「非常にそう思う」「思う」「少しそう思う」の割合の合計)は42.9%に対し、相談したいと思わない割合は57.1%となっている。



(上段: 回答者数、下段: %)

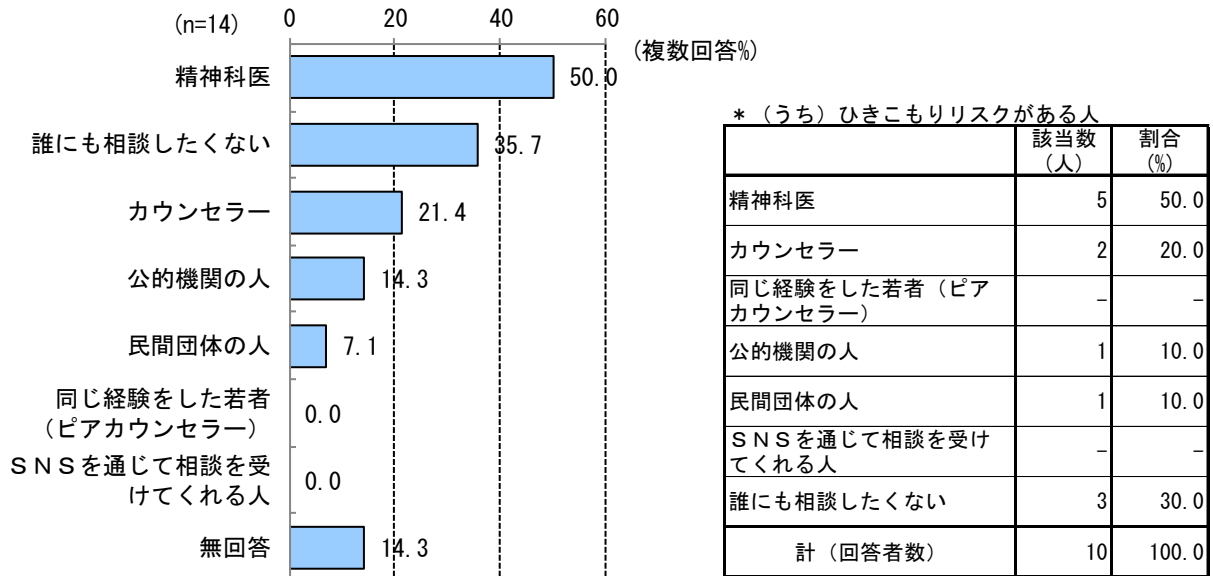
	n	非常に思う	思う	少し思う	思わない
(うち) ひきこもりリスクがある人	10	-	2	3	5
	100.0	-	20.0	30.0	50.0

②ひきこもり状態について希望する相談先

問31 現在の状態について、相談するとすれば誰に相談したいと思いますか。
(〇はいくつでも)

現在の状態について相談したい相手は、「精神科医」が50.0%（7人）で最も多く、次いで「誰にも相談したくない」が35.7%（5人）、「カウンセラー」が21.4%（3人）となっている。

□全体

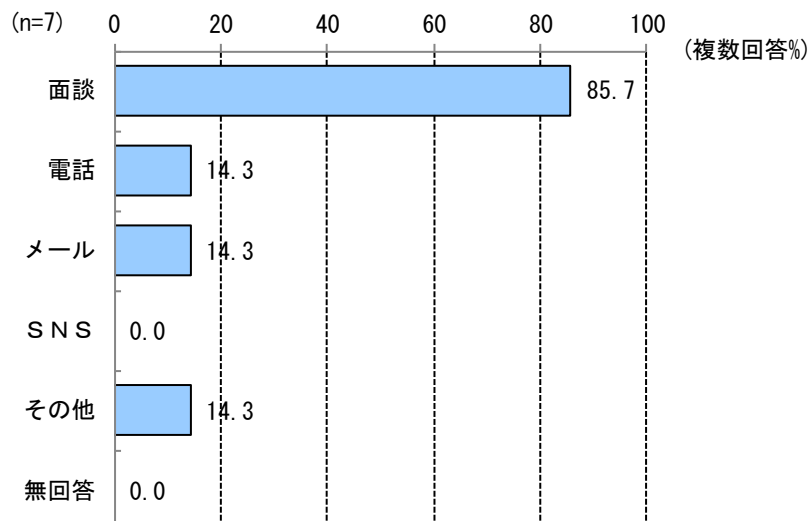


③ひきこもり状態について希望する相談方法

【問31で「精神科医」「カウンセラー」「同じ経験をした若者 (ピアカウンセラー)」「公的機関の人」「民間団体の人」「SNSを通じて相談を受けてくれる人」のいずれかを回答した方に】

問32 相談相手とは、どのような方法で相談したいですか。(〇はいくつでも)

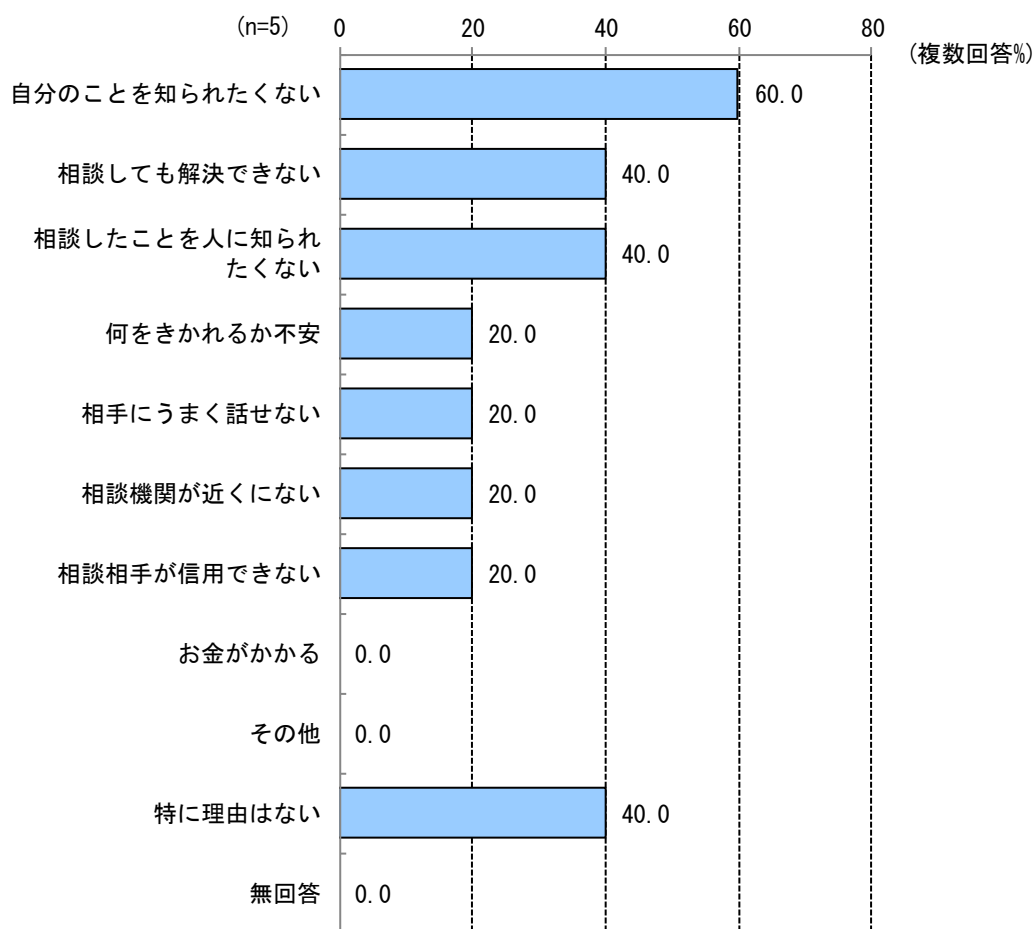
相談したい相手がいる人に、相談方法についてたずねると、「面談」が85.7%（6人）が多くなっている。（ひきこもりリスクがある人では、回答者5人中、「電話」1人、「面談」5人）



④相談したくない理由

【問31で「誰にも相談したくない」と回答した方に】
問33 相談したくないと思う理由は何ですか。(〇はいくつでも)

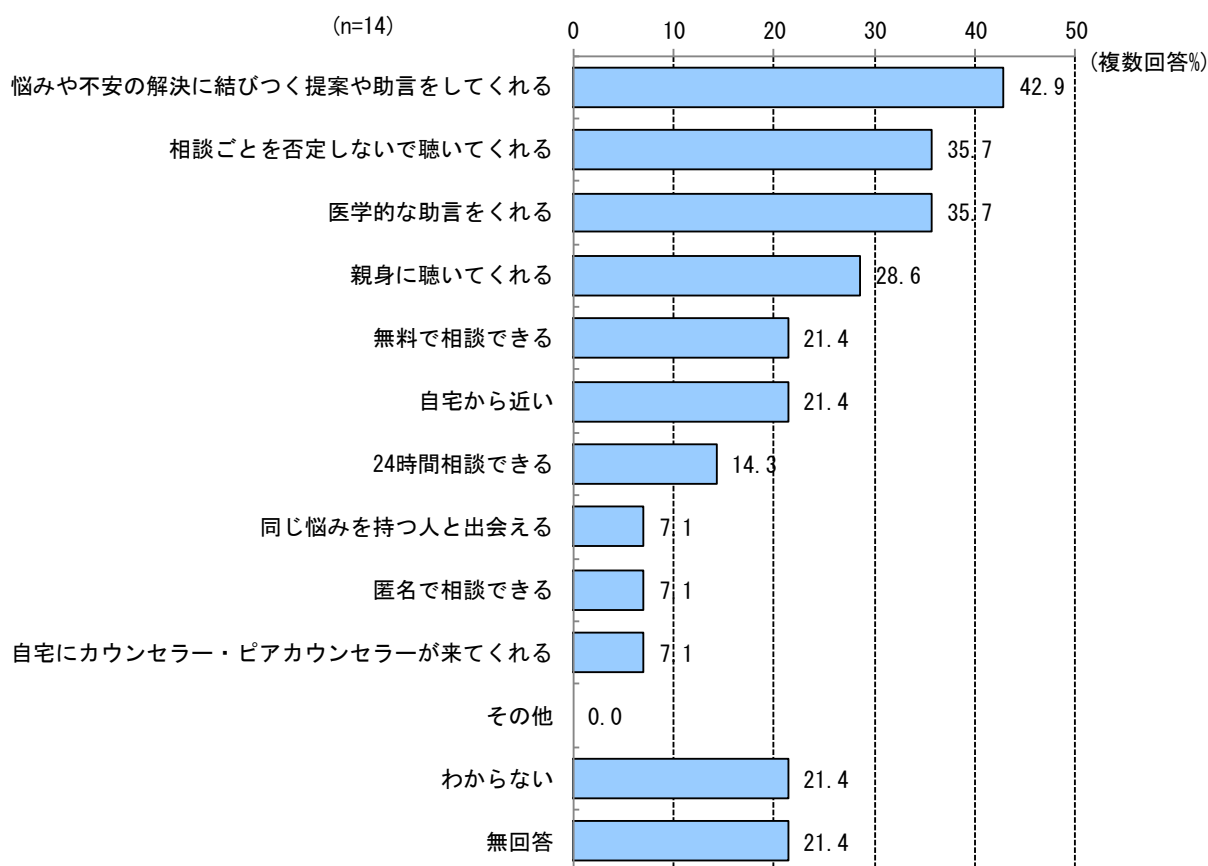
誰にも相談したくないと回答した人に、その理由についてたずねると、「自分のことを知られたくない」が60.0%（3人）が最も多く、次いで「相談しても解決できない」と「相談したことを人に知られたくない」が40.0%（2人）となっている。また、「特に理由はない」も40.0%（2人）となっている。（ひきこもりリスクがある人では、回答者3人中、「自分のことを知られたくない」「相談しても解決できない」各1人、「相手にうまく話せない」「相談したことを人に知られたくない」「相談機関が近くにない」「特に理由はない」各1人）



⑤相談する場合に重視すること

問34 相談するとすれば、あなたはどのようなことを重視しますか。(○はいくつでも)

相談する場合に重視することは、「悩みや不安の解決に結びつく提案や助言をしてくれる」が42.9%（6人）で最も多く、次いで「相談ごとを否定しないで聴いてくれる」と「医学的な助言をくれる」が各35.7%（5人）となっている。



* (うち) ひきこもりリスクがある人

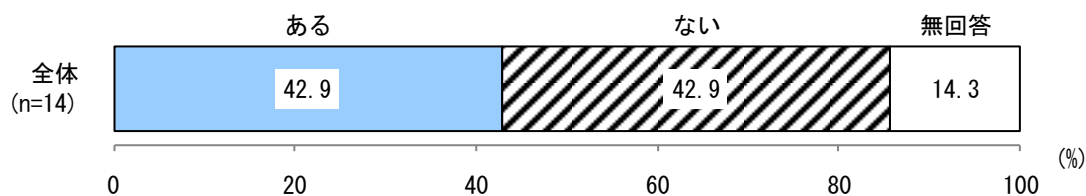
	該当数 (人)	割合 (%)
親身に聴いてくれる	3	30.0
相談ごとを否定しないで聴いてくれる	4	40.0
医学的な助言をくれる	4	40.0
悩みや不安の解決に結びつく提案や助言をしてくれる	5	50.0
同じ悩みを持つ人と出会える	1	10.0
匿名で相談できる	1	10.0
無料で相談できる	2	20.0
24時間相談できる	2	20.0
自宅にカウンセラー・ピアカウンセラーが来てくれる	1	10.0
自宅から近い	2	20.0
その他	-	-
わからない	2	20.0
計 (回答者数)	10	100.0

⑥現在の状態についての相談機関への相談経験

(ア) 相談経験の有無

問36 現在の状態について、相談機関に相談したことはありますか。(○は1つ)

現在の状態について相談機関に相談したことがある割合は42.9% (6人)、相談したことがない割合も42.9% (6人) である。



(上段：回答者数、下段：%)

	n	ある	ない	無回答
ひきこもりリスクがある人	10	4	4	2
	100	40.0	40.0	20.0

(イ) 相談したことの機関等

【問36で「ある」と回答した方に】
問37 どのような相談機関に相談しましたか。相談したことの機関等に○をつけてください。(○はいくつでも)

現在の状態について相談したことがあると回答した人に、相談した機関についてたずねたところ、「市役所の相談窓口」と「病院・診療所」が各33.3% (2人) となっている。

□全体

(うち)ひきこもりリスクがある人

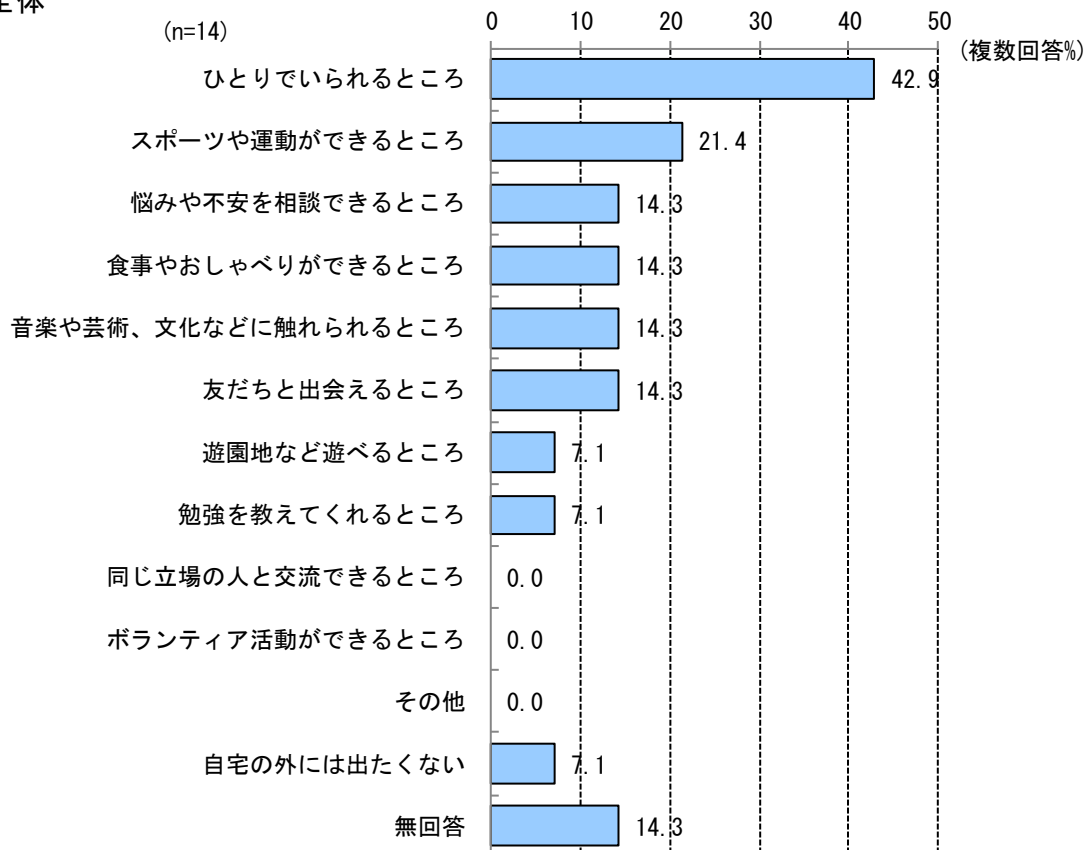
	該当数 (人)	割合 (%)	該当数 (人)	割合 (%)
市役所の相談窓口	2	33.3	1	25.0
病院・診療所	2	33.3	1	25.0
茨木市子ども・若者自立支援センター「くろす」	1	16.7	1	25.0
職業安定所 (ハローワーク) ・ジョブカフェ	1	16.7	1	25.0
地域若者サポートステーション	1	16.7	1	25.0
その他の心理相談・カウンセリングなどをする民間機関	1	16.7	-	-
その他の施設・機関等	1	16.7	-	-
茨木市教育センター	-	-	-	-
茨木市子ども相談室	-	-	-	-
茨木市保健医療センター	-	-	-	-
大阪府吹田子ども家庭センター (児童相談所)	-	-	-	-
大阪府茨木保健所	-	-	-	-
大阪府精神保健福祉センター (こころの健康相談センター)	-	-	-	-
大阪府ひきこもり地域支援センター	-	-	-	-
発達障害者支援センター	-	-	-	-
フリースクール	-	-	-	-
所属していた学校	-	-	-	-
学校の保健室、大学の保健センター	-	-	-	-
会社の産業医	-	-	-	-
計 (回答者数)	6	100.0	4	100.0

⑦自宅以外で過ごす場合に行きたいところ

問35 あなたは、自宅以外で過ごすなら、どんなところに行きたいですか。
(〇はいくつでも)

「ひとりでいられるところ」が42.9%（6人）で最も多く、次いで「スポーツや運動ができるところ」が21.4%（3人）となっている。以下、「悩みや不安を相談できるところ」「食事やおしゃべりができるところ」「音楽や芸術、文化などに触れられるところ」「友だちと出会えるところ」が続いている。

□全体



*（うち）ひきこもりリスクがある人

	該当数 (人)	割合 (%)
ひとりでいられるところ	2	20.0
同じ立場の人と交流できる場所	-	-
悩みや不安を相談できる場所	2	20.0
遊園地など遊べる場所	1	10.0
勉強を教えてくれる場所	1	10.0
食事やおしゃべりができる場所	2	20.0
スポーツや運動ができる場所	3	30.0
音楽や芸術、文化などに触れられる場所	2	20.0
ボランティア活動ができる場所	-	-
友だちと出会える場所	2	20.0
その他	-	-
自宅の外には出たくない	1	10.0
計（回答者数）	10	100.0

(5) 過去のひきこもり状態について

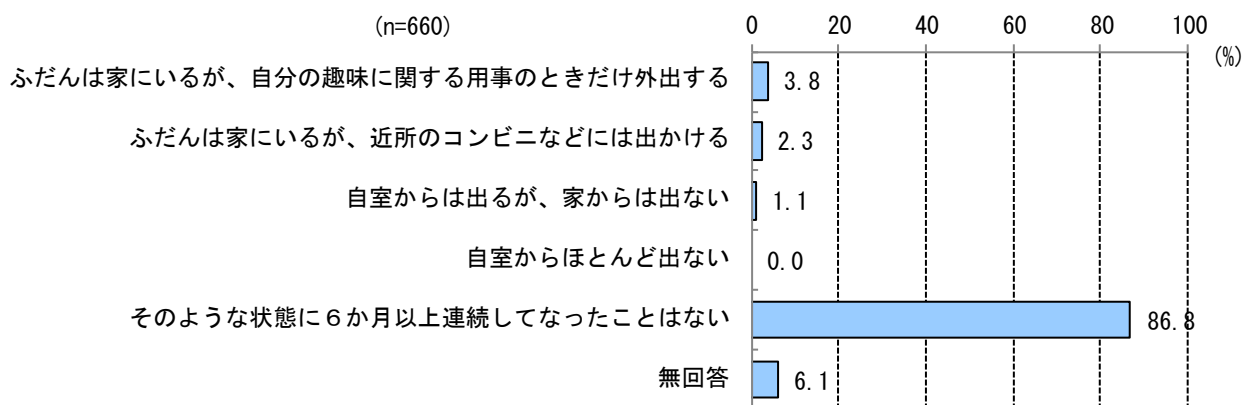
① 6か月以上連続して外出しない（外出することが少ない）状態の有無

【問26で「仕事や学校へ平日は毎日外出する」「仕事や学校へ週に3～4日外出する」「買い物や遊び、用事等で頻繁に外出する」「買い物や遊び、用事等でときどき外出する」のいずれかを回答した方に】

問38 あなたは、今までに6か月以上連続して、以下のような状態になったことはありますか。（〇は1つ）

毎日外出したり、外出することが多い人の中で、過去に6か月以上連続して外出しない（外出することが少ない）状態があったかどうかをたずねたところ、「そのような状態に6か月以上連続してなったことはない」が86.8%で最も多い。

一方、「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」（3.8%）、「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」（2.3%）、「自室からは出るが、家からは出ない」（1.1%）、「自室からほとんど出ない」（0.0%）のいずれかを回答し外部とのつながりが少ない傾向のあった人は7.2%となっている。



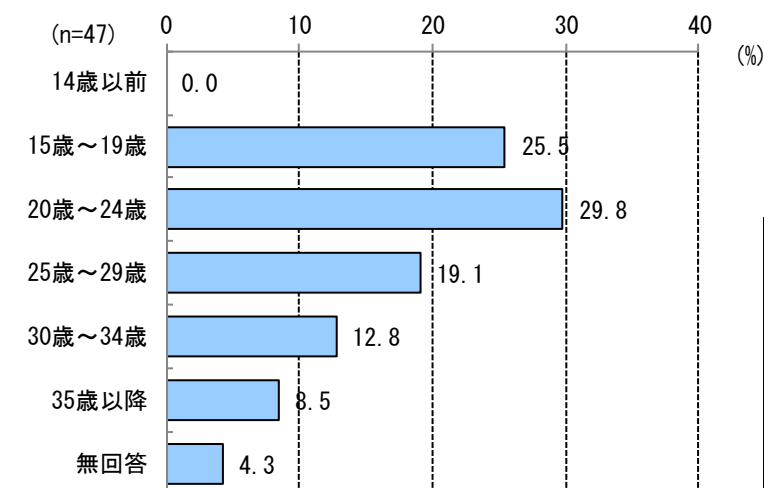
② ひきこもりの状態になった年齢

【問38で「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「自室からは出るが、家からは出ない」「自室からほとんど出ない」のいずれかを回答した方に】

問39 現在の状態になったのは、あなたが何歳の頃ですか。

過去、ひきこもりの状態になった年齢は、「20歳～24歳」が29.8%で最も多く、次いで「15歳～19歳」が25.5%となっている。

□ 全体



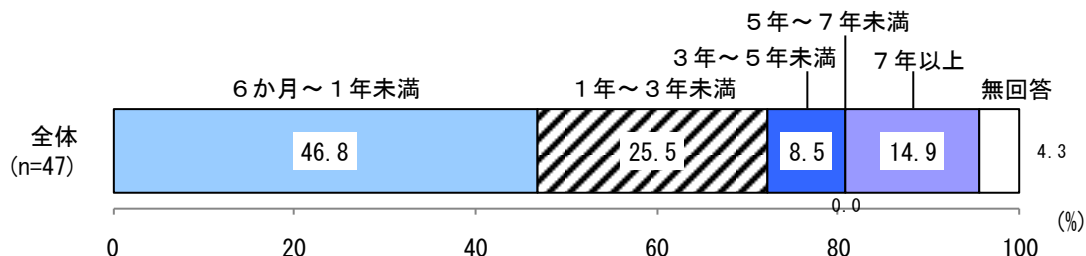
* (うち) ひきこもりリスクがあった人

	該当数 (人)	割合 (%)
14歳以前	-	-
15歳～19歳	12	33.3
20歳～24歳	12	33.3
25歳～29歳	3	8.3
30歳～34歳	4	11.1
35歳以降	3	8.3
無回答	2	5.6
計	36	100.0

③ひきこもりの状態だった期間

問40 その状態はどれくらい続きましたか。(○は1つ)

ひきこもりの状態だった期間は、「6か月～1年未満」が46.8%で最も多く、次いで「1年～3年未満」が25.5%となっている。



* (うち) ひきこもりリスクがあった人

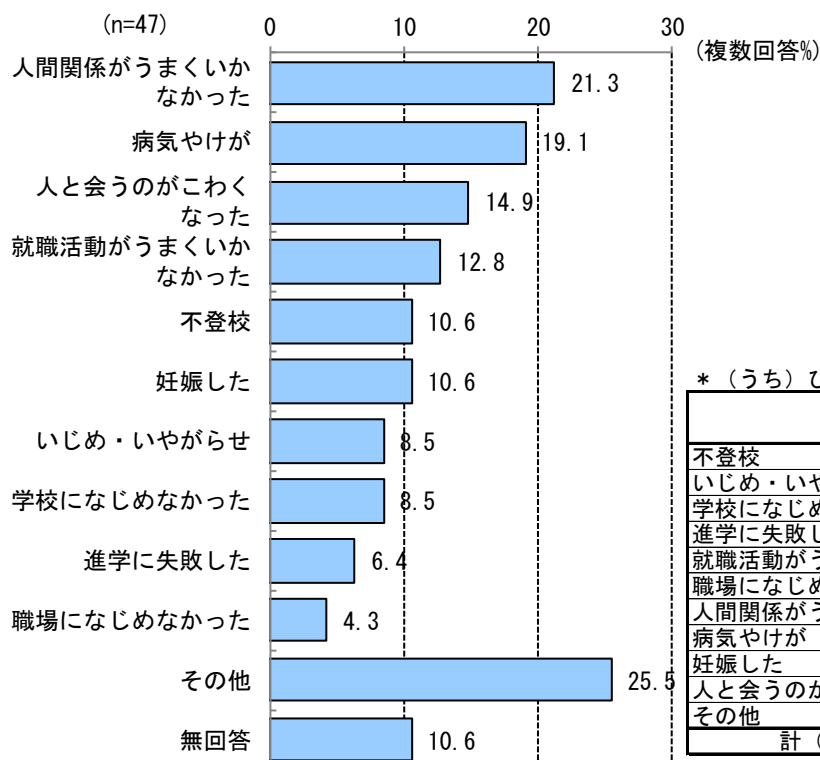
	該当数 (人)	割合 (%)
6か月～1年未満	16	44.4
1年～3年未満	9	25.0
3年～5年未満	4	11.1
5年～7年未満	-	-
7年以上	5	13.9
無回答	2	5.6
計	36	100.0

④ひきこもり状態になったきっかけ

問41 その状態になったきっかけは何ですか。(○はいくつでも)

過去、ひきこもり状態になったきっかけは、「人間関係がうまくいかなかった」(21.3%)が最も多い。これに次いで「病気やけが」(19.1%)で、以下、「人と会うのがこわくなった」(14.9%)、「就職活動がうまくいかなかった」(12.8%)、「不登校」(10.6%)、「妊娠した」(10.6%)が続いている。

□全体



* (うち) ひきこもりリスクがあった人

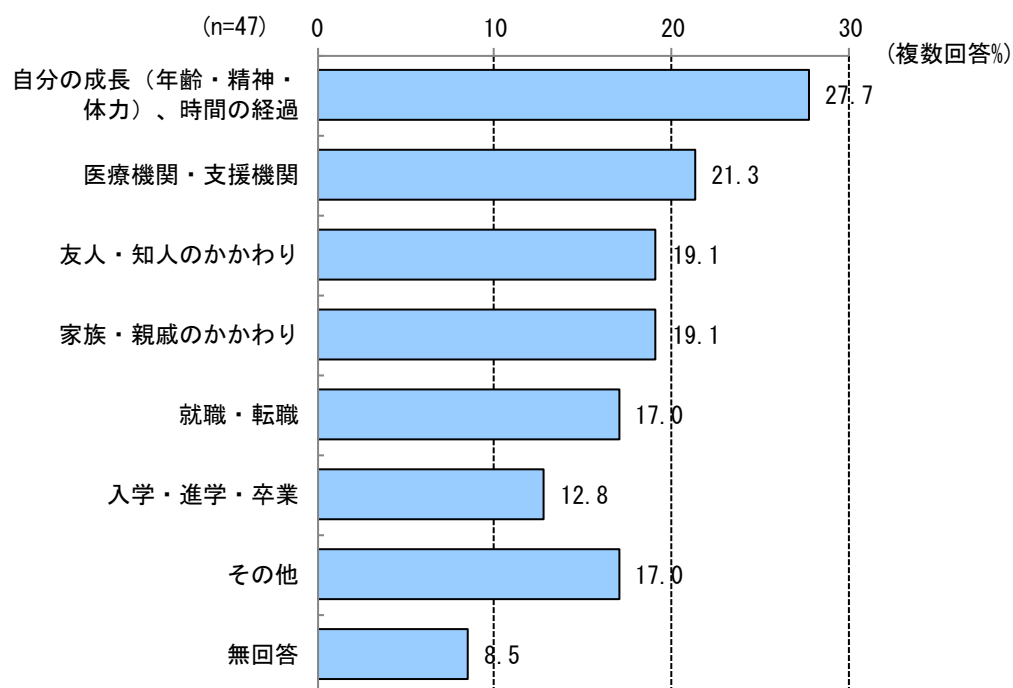
	該当数 (人)	割合 (%)
不登校	5	13.9
いじめ・いやがらせ	4	11.1
学校になじめなかった	4	11.1
進学に失敗した	3	8.3
就職活動がうまくいかなかった	6	16.7
職場になじめなかった	1	2.8
人間関係がうまくいかなかった	8	22.2
病気やけが	1	2.8
妊娠した	-	-
人と会うのがこわくなった	7	19.4
その他	11	30.6
計 (回答者数)	36	100.0

⑤ひきこもり状態から外出できるようになったきっかけ

問42 その状態から、外出できるようになったきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)

ひきこもり状態を脱して外出できるようになったきっかけは、「自分の成長(年齢・精神・体力)、時間の経過」(27.7%)が最も多い。これに次いで「医療機関・支援機関」(21.3%)で、以下、「友人・知人のかかわり」(19.1%)、「家族・親戚のかかわり」(19.1%)、「就職・転職」(17.0%)が続く。

□全体



* (うち) ひきこもりリスクがあった人

	該当数 (人)	割合 (%)
入学・進学・卒業	6	16.7
就職・転職	7	19.4
友人・知人のかかわり	7	19.4
家族・親戚のかかわり	6	16.7
医療機関・支援機関	7	19.4
自分の成長(年齢・精神・体力)	11	30.6
その他	4	11.1
計(回答者数)	36	100.0

7 悩みや相談先について

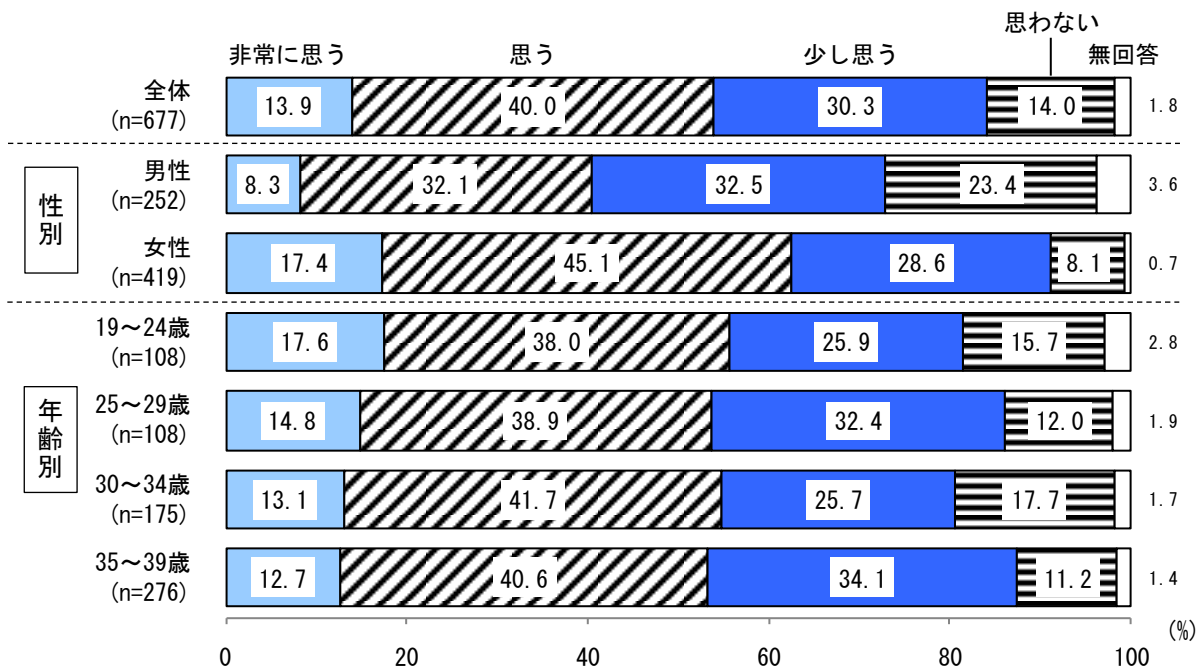
(1) 悩み事の相談意向

問43 あなたは、ふだん悩み事を誰かに相談したいと思いますか。(○は1つ)

ふだん悩み事について相談したいと思う割合(「非常に思う」「思う」「少し思う」の割合の合計)は84.2%に対し、相談したいと思わない割合は14.0%となっている。

性別では、相談したいと思う割合は、男性が72.9%に対し女性は91.1%で、特に女性の「非常に思う」割合が高く相談意向が強い。

年代別では、「非常に思う」割合は、19～24歳で高くなっている。相談したいと思う割合は、各年代とも8割を占めている。



(2) 悩み事の相談先

問44 あなたは、ふだん悩み事を誰に相談しますか。(〇はいくつでも)

ふだんの悩み事の相談先は、「友人・知人」が56.3%で最も多く、次いで「親」が48.0%となっている。以下、「配偶者」(41.2%)、「職場の同僚・上司」(25.8%)、「きょうだい」(18.0%)、「恋人」(10.2%)となっている。

性別では、男女とも「友人・知人」が相談相手として最も多い。これに次いで男女とも「親」「配偶者」となっている。

年代別では、19～24歳は「友人・知人」が、25～29歳は「親」が最も多くなっている。

また、25～29歳は「友人・知人」も親と同じくらい多い。30～34歳も「友人・知人」が最も多く、35～39歳は「配偶者」が58.0%で最も多い。

(複数回答%)

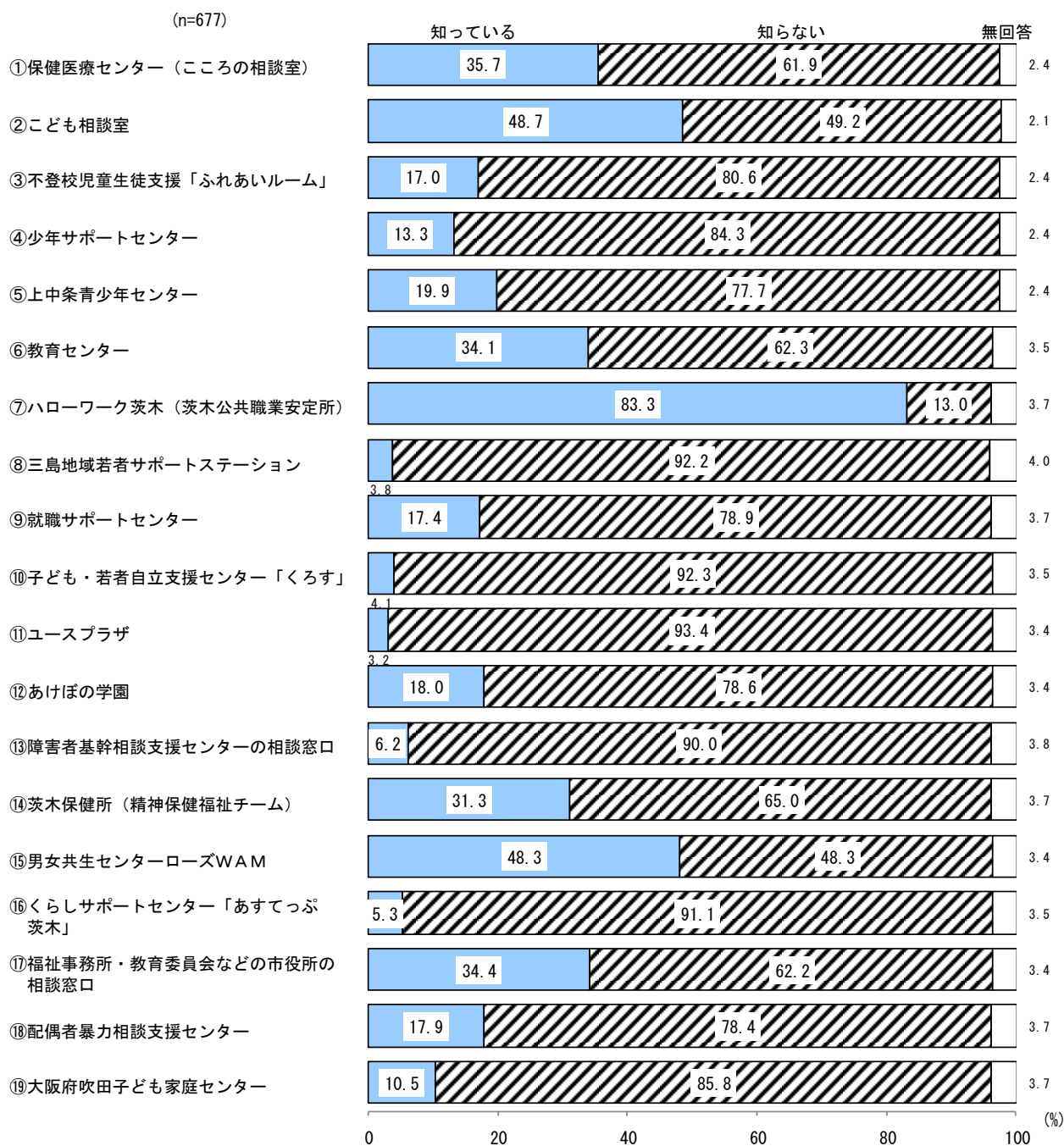
	n	親	きょうだい	親族	配偶者	恋人	友人・知人	学校の先生	職場の同僚・上司	カウンセラー・精神科医	都道府県、市町村などの専門機関の人	インターネット上の知り合い	インターネット上の知らない人	その他の人	誰にも相談しない	無回答	
全体	677	48.0	18.0	6.1	41.2	10.2	56.3	1.5	25.8	3.1	1.0	1.3	1.2	1.3	10.0	1.3	
性別	男性	252	38.1	11.9	8.3	31.7	8.3	41.3	1.2	29.8	3.6	0.4	2.0	1.2	15.1	2.8	
	女性	419	53.7	21.7	4.8	47.0	11.2	66.1	1.7	23.9	2.9	1.4	1.0	1.2	6.9	0.5	
年代別	19～24歳	108	49.1	13.9	5.6	3.7	17.6	59.3	8.3	8.3	4.6	0.9	2.8	1.9	0.9	13.9	0.9
	25～29歳	108	66.7	24.1	5.6	27.8	25.0	61.1	-	28.7	3.7	0.9	1.9	0.9	-	8.3	1.9
	30～34歳	175	44.0	18.3	5.1	44.6	5.7	54.3	-	25.7	1.7	1.1	1.1	-	1.1	13.1	1.7
	35～39歳	276	42.8	17.4	7.2	58.0	4.3	55.4	0.4	32.2	3.3	1.1	0.7	1.8	2.2	7.2	1.1

(3) 子ども・若者を対象とした相談窓口や相談機関の認知状況

問45 次の子ども・若者を対象とした相談窓口や相談機関等について、(1) 知っているか、(2) 利用したことがあるか、(3) 今後利用したいか、についてお答えください。(〇はそれぞれに1つつ)

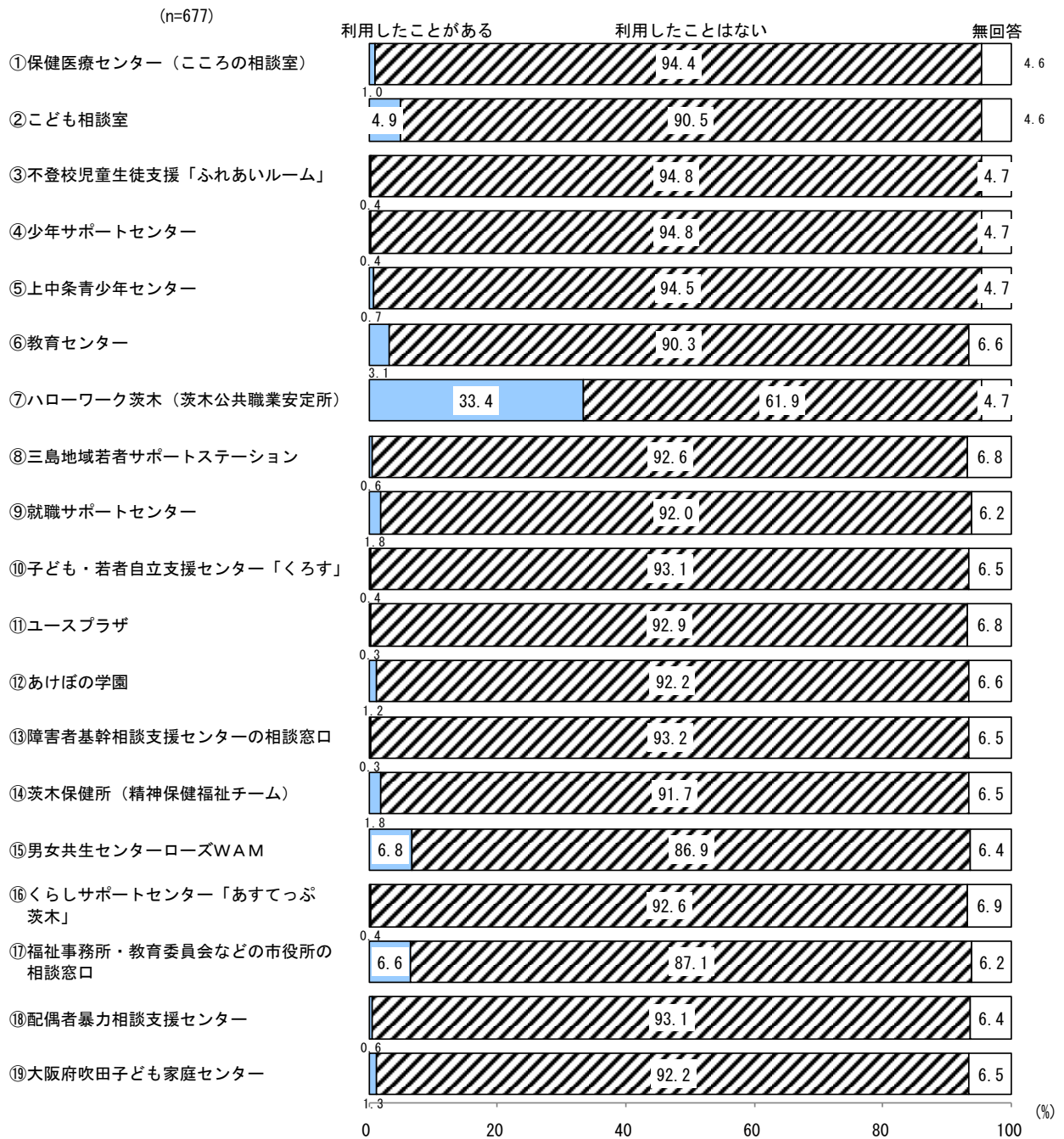
(ア) 認知状況

子ども・若者を対象とした相談窓口や相談機関について、「知っている」割合が最も高いのは「⑦ハローワーク茨木（茨木公共職業安定所）」の83.3%で、次いで「②こども相談室」の48.7%、「⑮男女共生センターローズWAM」の48.3%となっている。



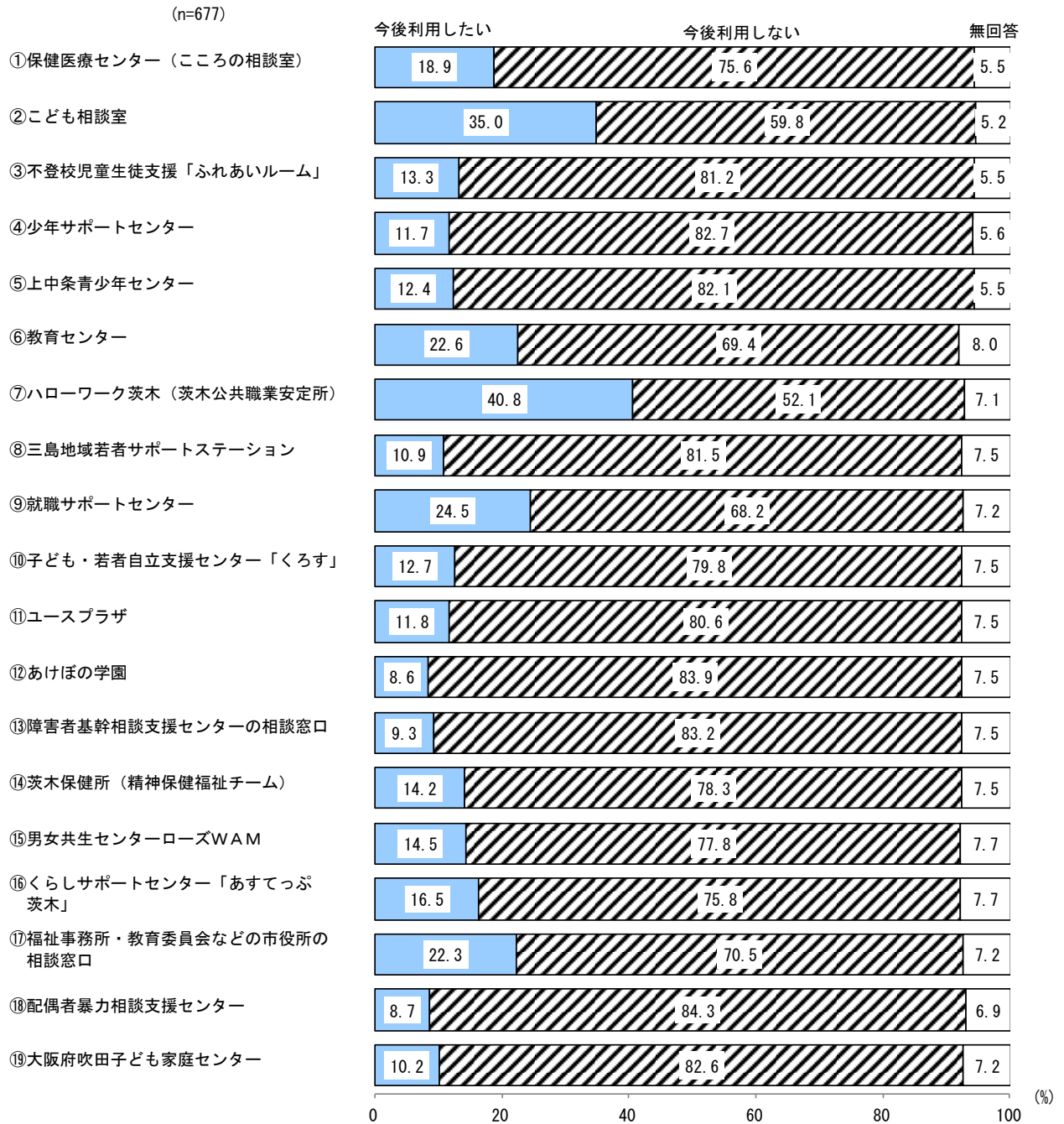
(イ) 利用経験

利用したことがある割合は、「⑦ハローワーク茨木（茨木公共職業安定所）」が33.4%で最も高く、次いで「⑮男女共生センターローズWAM」（6.8%）、「福祉事務所・教育委員会などの市役所の相談窓口」（6.6%）となっている。



(ウ) 利用意向

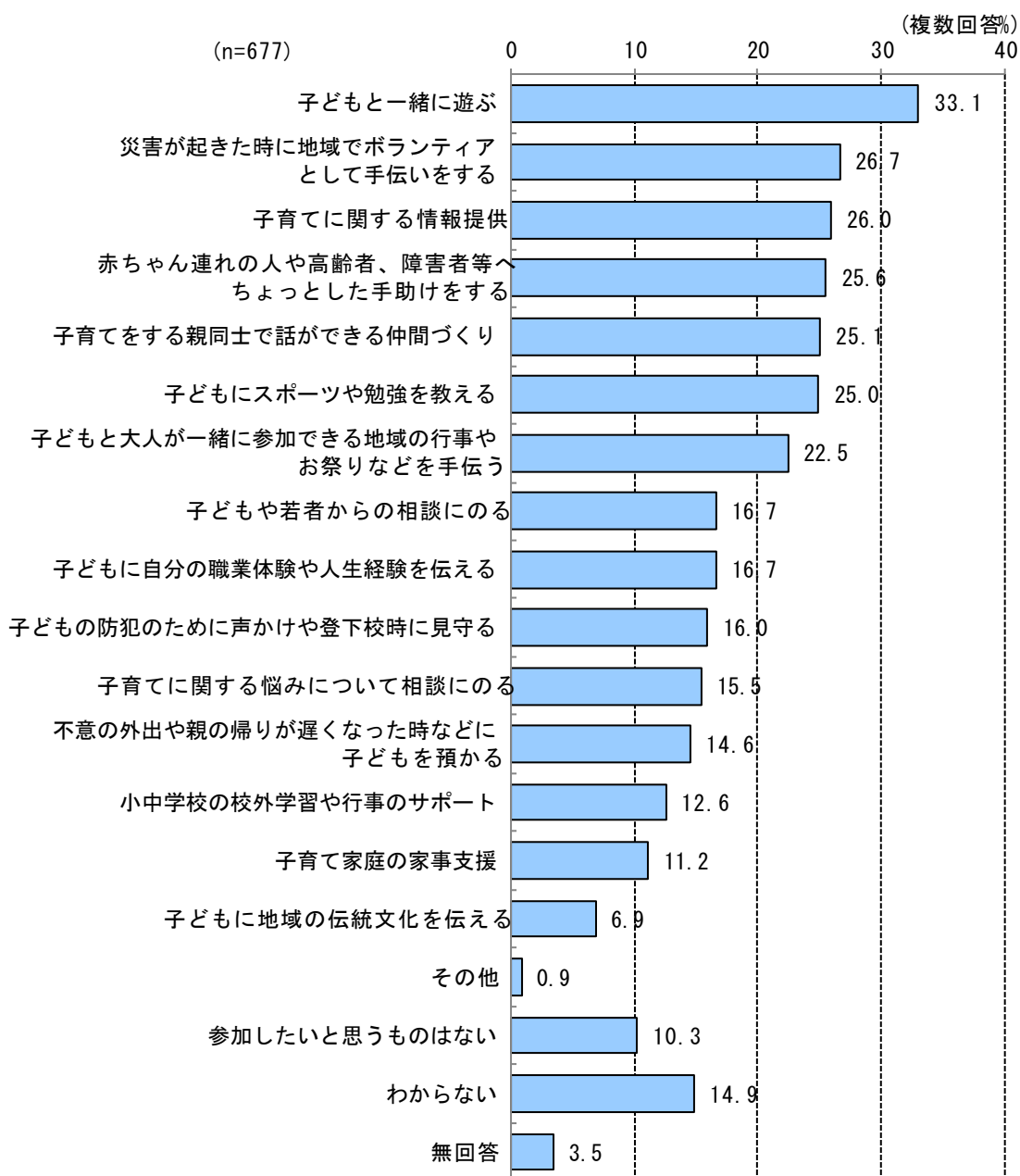
利用意向率は、「⑦ハローワーク茨木（茨木公共職業安定所）」が40.8%で最も高く、次いで「②こども相談室」の35.0%、「⑨就職サポートセンター」の24.5%となっている。



8 地域社会で子育てに関する活動の支え手として参加したい活動

問46 地域社会における子育てに関する活動の支え手として、あなたが参加したいと思うものはありますか。(〇はいくつでも)

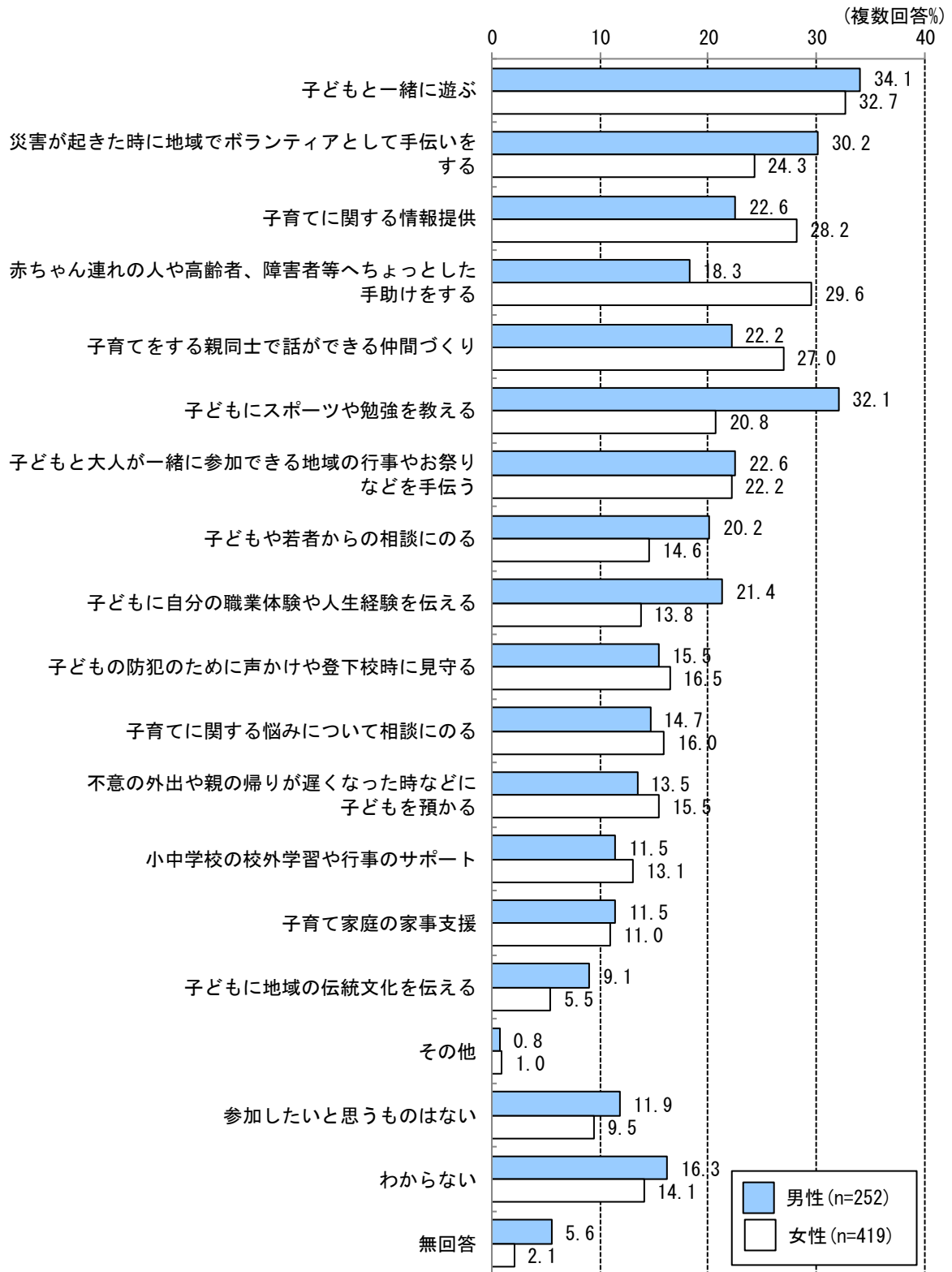
「子どもと一緒に遊ぶ」が33.1%で最も多い。これに次いで「災害が起きた時に地域でボランティアとして手伝いをする」(26.7%)で、以下、「子育てに関する情報提供」(26.0%)、「赤ちゃん連れの人や高齢者、障害者などへ、ちょっとした手助けをする」(25.6%)、「子育てをする親同士で話ができる仲間づくり」(25.1%)、「子どもにスポーツや勉強を教える」(25.0%)が続いている。



性別では、男女とも「子どもと一緒に遊ぶ」(男性34.1%、女性32.7%)が最も多い。これに次いで、男性では「子どもにスポーツや勉強を教える」(32.1%)で、以下、「災害が起きた時に地域でボランティアとして手伝いをする」(30.2%)、「子育てに関する情報提供」「子どもと大人と一緒に参加できる地域の行事やお祭りなどを手伝う」(各22.6%)、「子育てをする親同士で話ができる仲間づくり」(22.2%)、「子どもに自分の職業体験や人生経験を伝え

る」(21.4%)が続いている。一方、女性では、「赤ちゃん連れの人や高齢者、障害者などへ、ちょっとした手助けをする」(29.6%)が2番目に多く、以下、「子育てに関する情報提供」(28.2%)、「子育てをする親同士で話ができる仲間づくり」(27.0%)、「災害が起きた時に地域でボランティアとして手伝いをする」(24.3%)が続く。

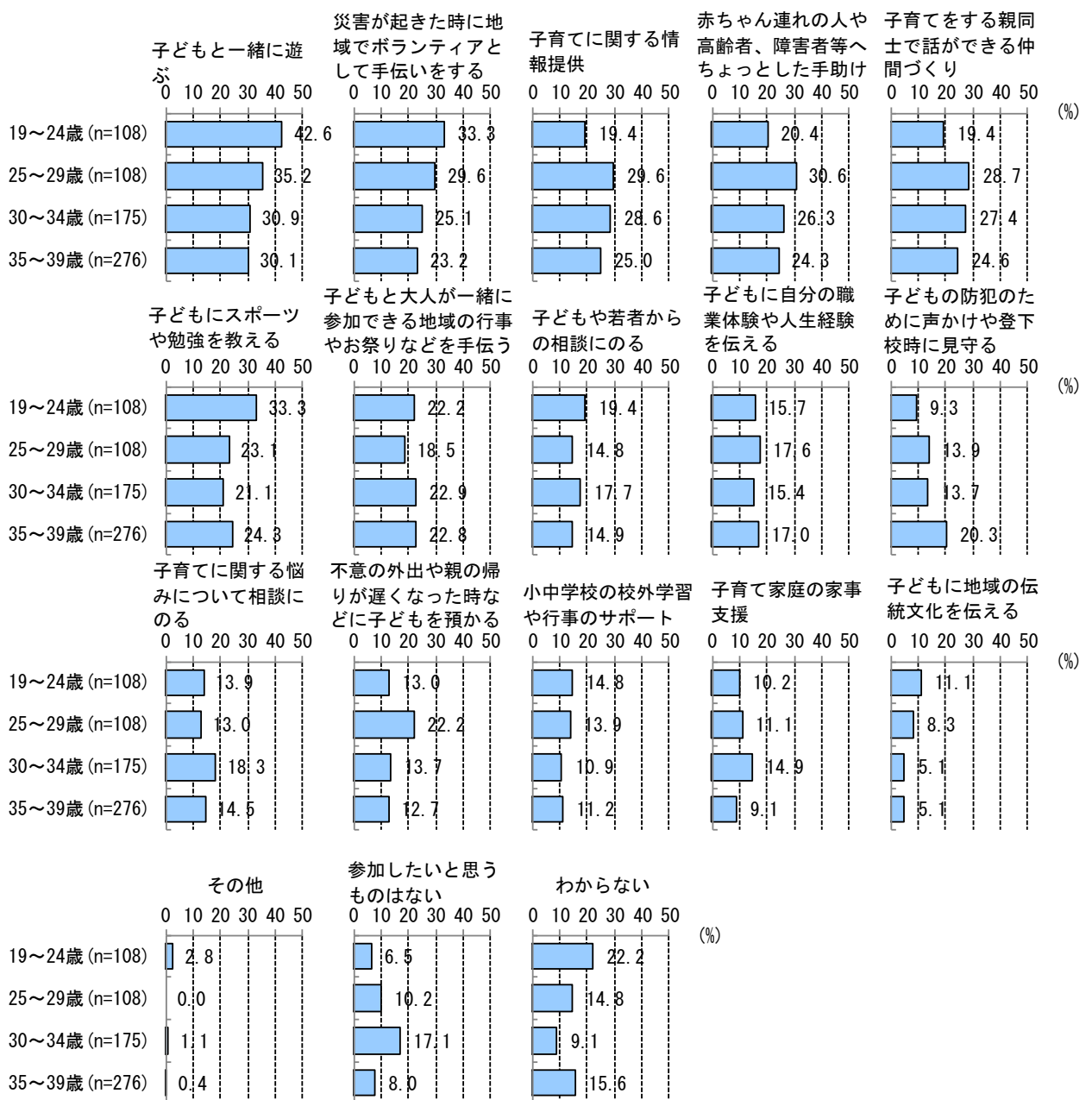
□性別



年代別では、いずれの年代も「子どもと一緒に遊ぶ」が最も多く、19～24歳の割合が42.6%で最も高くなっている。また、「子どもにスポーツや勉強を教える」も19～24歳の割合が高くなっている。一方、「子育てに関する情報提供」や「赤ちゃん連れの人や高齢者、障害者などへ、ちょっとした手助けをする」「子育てをする親同士で話ができる仲間づくり」「子どもの防犯のために声かけや登下校時に見守る」については、19～24歳の各割合は低くなっている。

「子育てに関する情報提供」「赤ちゃん連れの人や高齢者、障害者などへ、ちょっとした手助けをする」「子育てをする親同士で話ができる仲間づくり」は25～29歳と30～34歳の各年代の割合が高い。35～39歳は「子どもの防犯のために声かけや登下校時に見守る」の割合が高くなっている。

□年代別



9 茨木市の暮らしについて

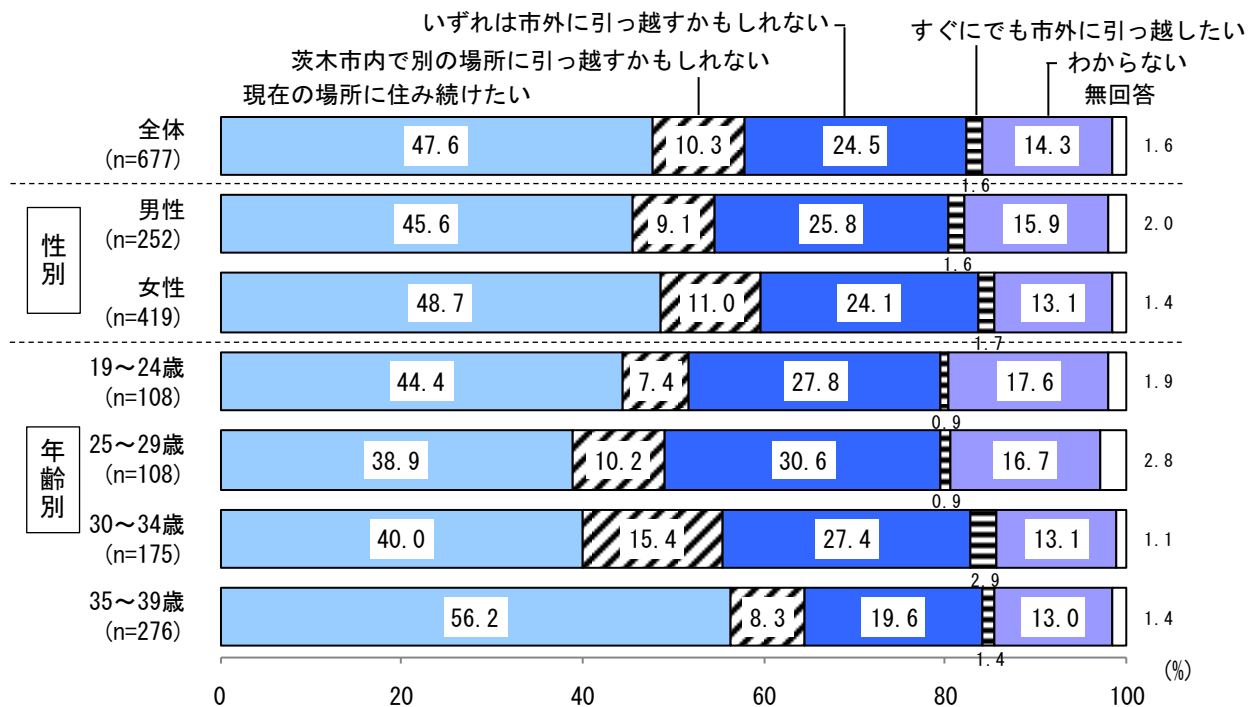
(1) 現在の住まいの場所での居住意向

問47 あなたは、今後も現在お住まいの場所に住みたいと思われませんか。
(○は1つ)

「現在の場所に住みたい」が47.6%で最も多く、次いで「いずれは市外に引っ越すかもしれない」(24.5%)となっている。

性別では、「現在の場所に住みたい」は男性45.6%、女性48.7%となっているが、男女とも4人に1人は市外への転居を考えている。「いずれは市外に引っ越すかもしれない」と「すぐにでも市外に引っ越したい」の合計)

年代別では、19～34歳までの各年代の「現在の場所に住みたい」割合は4割前後で、「いずれは市外に引っ越すかもしれない」の割合が高い。35～39歳は、「現在の場所に住みたい」割合が56.2%と半数を超えている。



(2) 茨木市内に住み続けたい理由

【問47で「現在の場所に住み続けたい」と回答した方に】
問48 茨木市内に住み続けたい理由は何ですか。(〇はいくつでも)

茨木市に住み続けたい理由で最も多いものは、全体では「住み慣れているから」(60.9%)である。これに次いで「交通の便が良いから」が59.3%で、以下、「住環境が良いから」(54.0%)、「親や親戚がいるから」(40.7%)、「日常生活に必要な施設、ものが揃っていて良いから」(39.1%)が続く。

性別では、男性は「住み慣れているから」(67.8%)が、女性は「交通の便が良いから」(62.7%)が最も多い。これに次いで、男性は「住環境が良いから」(56.5%)。「交通の便が良いから」(53.9%)が、女性は「住み慣れているから」(56.9%)、「住環境が良いから」(53.4%)がそれぞれ多くなっている。

年代別では、19～24歳は「住み慣れているから」(87.5%)が、25～29歳は「交通の便が良いから」(61.9%)、30～34歳は「住環境が良いから」と「住み慣れているから」(各57.1%)が多くなっている。35～39歳は「住環境が良いから」と「交通の便が良いから」(各58.7%)が多い。また、「子育て環境が良いから」は、35～39歳の年代が36.1%で、「まちのイメージが良いから」は、19～24歳の年代が33.3%で、それぞれ最も高くなっている。

□性別、年代別

		(複数回答%)																
		n	自然環境が良いから	住環境が良いから	交通の便が良いから	子育て環境が良いから	教育環境が良いから	福祉環境が良いから(高齢者・障害者福祉など)	福祉環境が良いから(高齢者・障害者福祉など)	商売や仕事の都合が良いから	日常生活に必要な施設、ものが揃っていて良いから	住み慣れているから	まちのイメージが良いから	親や親戚がいるから	人間関係が良いから	今後もまちが繁栄・発展すると思うから	その他	無回答
全体		322	25.2	54.0	59.3	25.5	18.3	1.6	16.5	39.1	60.9	19.6	40.7	16.8	6.8	3.4	0.6	
性別	男性	115	29.6	56.5	53.9	19.1	16.5	1.7	21.7	33.0	67.8	26.1	33.9	19.1	9.6	3.5	0.9	
	女性	204	23.0	53.4	62.7	29.4	19.1	1.5	13.7	43.1	56.9	16.2	45.1	15.7	5.4	3.4	0.5	
年代別	19～24歳	48	27.1	41.7	72.9	6.3	20.8	6.3	4.2	41.7	87.5	33.3	56.3	20.8	8.3	4.2	2.1	
	25～29歳	42	31.0	54.8	61.9	11.9	9.5	-	19.0	42.9	54.8	16.7	35.7	11.9	4.8	7.1	-	
	30～34歳	70	22.9	57.1	50.0	21.4	10.0	1.4	17.1	35.7	57.1	11.4	38.6	8.6	2.9	-	1.4	
	35～39歳	155	25.2	58.7	58.7	36.1	23.2	0.6	20.0	40.0	55.5	20.0	38.7	20.6	9.0	3.9	-	

(3) 茨木市内の別の場所や市外に転居・転出したい理由

【問47で「茨木市内で別の場所に引っ越すかもしれない」「いずれは市外に引っ越すかもしれない」「すぐにでも市外に引っ越したい」のいずれかを回答した方に】

問49 茨木市内の別の場所や市外に引っ越すかもしれない理由は何ですか。

(○はいくつでも)

全体では、「住宅が狭いから」が21.9%で最も多い。これに次いで「住宅の価格・家賃が高いから」と「親や親戚と暮らすから・近くに住むから」(各16.2%)で、以下、「商売や仕事の都合が良くないから」(13.8%)、「交通の便が良くないから」(12.6%)、「子育て環境が良くないから」(8.9%)が続いている。

性別では、男性は「親や親戚と暮らすから・近くに住むから」が20.7%で最も多く、女性は「住宅が狭いから」が26.6%で最も多い。

年齢別では、19～24歳は、「交通の便が良くないから」「商売や仕事の都合が良くないから」「親や親戚と暮らすから・近くに住むから」が各12.8%で多い。25～29歳は「商売や仕事の都合が良くないから」(24.4%)が、30～34歳と35～39歳は「住宅が狭いから」がそれぞれ多くなっている。

□性別、年代別

		(複数回答%)																		
		調査数	自然環境が良くないから	住宅が狭いから	住宅の価格・家賃が高いから	交通の便が良くないから	子育て環境が良くないから	教育環境が良くないから	福祉環境が良くない(高齢者・障害者福祉など)から	から	商売や仕事の都合が良くない	が日常生活に必要な施設、ものが不足しており不便だから	まことに馴染めないから	ら	まちのイメージが良くないから	に親や親戚と暮らすから・近くに	人間関係が良くないから	と今後もまちが繁栄・発展すると思えないから	その他	無回答
全体		247	4.5	21.9	16.2	12.6	8.9	3.6	2.4	13.8	6.1	2.8	2.4	16.2	1.2	2.8	34.4	3.2		
性別	男性	92	2.2	14.1	14.1	13.0	3.3	2.2	-	18.5	5.4	1.1	2.2	20.7	-	1.1	33.7	4.3		
	女性	154	5.8	26.6	17.5	12.3	12.3	4.5	3.9	11.0	6.5	3.9	2.6	13.6	1.9	3.9	34.4	2.6		
年代別	19～24歳	39	2.6	7.7	10.3	12.8	2.6	2.6	-	12.8	5.1	5.1	2.6	12.8	-	2.6	43.6	5.1		
	25～29歳	45	4.4	20.0	20.0	13.3	11.1	4.4	2.2	24.4	8.9	-	4.4	13.3	2.2	2.2	40.0	-		
	30～34歳	80	3.8	26.3	21.3	15.0	11.3	6.3	2.5	13.8	5.0	3.8	3.8	18.8	1.3	2.5	26.3	2.5		
	35～39歳	81	4.9	25.9	12.3	9.9	8.6	1.2	3.7	8.6	6.2	2.5	-	17.3	1.2	3.7	34.6	4.9		

Ⅲ. 調査結果からみえてきた今後の課題

1 多様な相談窓口の周知

ふだん悩んだり困ったりしていることは、19～24歳は「お金のこと」「性格のこと」が多く、次いで「勉強や進学のこと」となっている。それ以上の年代では、「お金のこと」が最も多く、これに次いで「自分自身の健康のこと」が、30歳代では「親のこと」の割合が高くなっている。また、悩み事について相談したいと思う割合は84.2%で、ふだんの相談先は、「友人・知人」(56.3%)や「親」(48.0%)が多くなっている。

こうした悩みや困りごとに対応するため、本市には様々な相談窓口や相談機関が設置されている。調査結果では、認知率が高い相談窓口は「ハローワーク茨木（茨木公共職業安定所）」(83.3%)や「こども相談室」(48.7%)、「男女共生センターローズWAM」(48.3%)であるが、その他の相談窓口、相談機関の周知は必ずしも十分でない。相談ニーズに応じて適切な窓口につながるよう、相談機関の内容などについてわかりやすく周知することが必要である。

2 専門的な相談機能の充実

調査結果では、現在「ひきこもりリスクがある人」は、回答者全体では1.5% (677人中10人)で、そのうち男性で2.8%、女性で0.7%、年代別では19～24歳が2.8%で最も高くなっている。このような状態について希望する相談相手は、「精神科医」が最も多く、面談による相談希望が多い。また、相談する場合に重視することは、「悩みや不安の解決に結びつく提案や助言をしてくれる」や「相談ごとを否定しないで聴いてくれる」「医学的な助言をくれる」が多く、様々な原因が複合して発生することが多いひきこもり状態への適切な対応には、専門的な相談支援機能の整備・充実が必要である。

3 ひきこもりの長期化を防ぐための包括的な支援の充実

調査結果では、ひきこもり状態になった年齢は、20歳代が最も多く、そのきっかけは「学校になじめなかった」や「職場になじめなかった」「人間関係がうまくいかなかった」などが多くなっている。また、その背景には精神疾患や発達障がいなどがある場合も少なくなく、それによりその状態が長期化する場合もあるとされる。

さらに調査結果では、ひきこもりの状態になってからの期間が「7年以上」の者もあり、ひきこもりは長期化すればするほど、学校関係者や友人から疎遠になり、介入が困難になるおそれがある。そのため、ひきこもりの初期段階から学校関係者や地域の支援者、行政機関等が包括的に関わり、社会との関係を維持できる支援体制の充実が必要である。

4 予防的な視点での取組と支援の推進

調査結果では、多くの若者が、もっと自分に自信を持てたらよいと思ったり、また、今の自分に満足していないと回答している。さらに、自分にふさわしい仕事があると思ったり、いつか自分の夢を実現させる仕事をしたいと思ったりする若者は多く、「定職に就かない方が自由でいいと思う」という意見に対し否定的な考えを持つ若者も少なくない。

子ども・若者が将来に夢と希望を抱き、進みたい道を描くことができるよう、職業観やキャリア形成への支援に努めるとともに、就労で失敗しても再チャレンジできる機会の充実など、予防的な視点でひきこもり対策に取り組んでいくことが必要である。

5 社会性を育む機会や居場所の提供

調査結果では、地域社会で子育てに関する活動の支え手として参加したい活動として、「子どもと一緒に遊ぶ」(33.1%)で最も多く、次いで「災害が起きた時に地域でボランティアとして手伝いをする」(26.7%)で、以下、「子育てに関する情報提供」(26.0%)、「赤ちゃん連れの人や高齢者、障害者などへ、ちょっとした手助けをする」(25.6%)、「子育てをする親同士で話ができる仲間づくり」(25.1%)、「子どもにスポーツや勉強を教える」(25.0%)が続いている。このような社会貢献活動への参加や多世代間の交流を通じて、自己肯定感を高め、社会性や他者への思いやりを育むための支援の充実が必要である。

また、困難を有する子ども・若者が自分のペースでコミュニケーションをとり、同じ思いを共有できる仲間がいると実感できる居場所を提供することが必要である。